
竜胆の花と青い薔薇

日野五十鈴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

竜胆の花と青い薔薇

【Nコード】

N0626F

【作者名】

日野五十鈴

【あらすじ】

基本的に歌詞です。どれかひとつだけ、1小節だけでも、皆様の心の中で何かが響き渡りますように…。 更新しました 8 / 5

竜胆花

涙色した花びら

風の中ひとり揺れて

哀しい姿そのまま

かまわない 笑ってよ

竜胆花

冷たい雨に打たれて君は

花を閉ざしていた

たったひとり雨に濡れてる

僕と重なって見えた

雨があがって急いで僕は

仲間のもとに帰ったけど

君はまだあの場所でひとり

（風の）流れに身を

任せているのかな…

サヨナラを言うためだけに

逢いにきたんじゃないよ

悲しむ君を愛するから

もう一度 咲かせてよ

竜胆花

蕾のまま手折られて君は

もう花開くことはない

だけど僕の分からずやな脚は

秋の山に駆け出してゐるんだ
雲の切れ間に青空が見えて
君は陽に照らされ咲いてる
それでよかった

それだけでよかった

（きつと）世界がまるで
変わったのに…

唄を知らぬ雛みたいに

ただ啼くだけの僕だけど

涙に迷うその前に

胸の痛み 伝えてよ

竜胆花

それでも僕は無力を嘆いて
終れる程もう幼くはない
君がくれた世界の真実
ポケットに今歩き出す…

涙色した花びら

風の中ひとり揺れて

哀しい姿そのままで

かまわない 笑ってよ

サヨナラを言うためだけに

逢いにきたんじゃないよ

悲しむ君を愛するから

もう一度 咲かせてよ

竜胆花

Wonderful World

どこに行きたい？

行けるところまで！

何も持たずに？

そう、この身ひとつで

靴も脱ぎ捨てて？

裸足のままでも

翼が無くても

どこまでも行けるよ

鉄の匂い機械メカの音

充滿するこの街で

生きてゆくほどに暴れだす

激しい衝動

広い草原の遥かへ

白い氷原の彼方へ

準備はいい？

僕はできたよ

さあ、走りだそうぜ！

It's a wonderful world.

世界が君を待つてる

Why don't you go out on

the street,

行こう。声の呼ぶ方へ

and tell me who's

beautiful one?

その目を開けてごらんよ
ほら

Stand up now , and go .
見えるだろう？
この素晴らしい景色が

最後に何がしたい？
何もしないかな
望みはないの？
とつくに捨てたよ

じゃあ、どこまで行くの？
当てなんてない
気の向くまま

それだけが道標
錆色の風が渦巻く
赤褐色の空のもとで
求めるほどに騒ぎだす

ヤワな感情
晴れた野原の窓辺
枯れた野バラの跡へ
準備はいい？
僕はできたよ

さあ、走りだそうぜ！
It's a wonderful world .
僕を捕まえてみて
Now let us fight to
catch a freedom .
でないと

どこまでも行っちゃうよ？

To do away with every

chain .

その手を放さないでいて

There's so little time
now .

終点過ぎても

走って行きそうだから

事実と小説

夢と現実^{リアル}

混り合うこの世界を

駆け抜けるほどに

迷い込む複雑な迷路

爪痕残す光の

夢溢れてゆく未来へ

そこには一緒に行けない

ちよつと…残念だけど

It's a wonderful world .

世界が君を喚んでる

Why don't you go out on
this way ,

行けよ

一人になつても

and tell me who's
diabolic child?

耳を澄ましてごらんよ

ほら

The real world isn't so
kind .

聞こえるだろう？

この素晴らしい歌声が

It's a wonderful world .
僕だけを見つめていて

Now let us fight to
get a truth .

でないと

どこにでも行っちゃうよ？

Today away with every
border .

その目を逸らさないでいて

Life means never having
to say you're sorry .

世界の果てまで

飛んで行きそうだから

星空の Licht

夜空に輝く満天の星
地上に光る沢山の灯ひ
スバルや明星、北斗七星
この地上にも輝いてる？
沢山の光その中に
何が見える？ 誰が見える？
長い夜が明け朝日は昇り
星はすうーっと消えていった
あの光は何処へ消えた？
空ばかり見る人ごみの中
僕らは、さまよい続ける
見えるものだけが真実じゃない
空の星だけが全てじゃない
地上に光る灯ひの中にも
答えはある
きつと見つかる

幾千もの永い時ながを越えて
地を渡った遅しき鳥

三ツ星に北極星
サザンクロス
南十字星

この地上にも光ってる？
時の中で天と地の間で
何があつた？ 何が見えた？

再び何処かで朝日は昇り
星はまた消えていった
僕らの夢は何処へ消えた？
下ばかり見る人ごみの中
僕らは、捜し続ける
泣かないだけが強さじゃない
闘うだけが勇気じゃない
流した涙のその数だけ
強さはある
きつと見つける

いつも一人きりだと思ってた
一人で生きてゆけると信じてた
アンドロメダ、マゼラン、天の川
あの日僕には見えなかった
空から沢山の雨が降って
もう何も無い。何も見えない
それでも変わらずに朝日は昇り
星はもう消えていった
あの人ごみは何処へ消えた？
廃墟と化した街並みの中
僕は、歩き続ける
人は一人じゃ生きてゆけない
ただ寂しくてただ恋しくて
なくして初めてやっと分かった
悲しみはある
こんな僕にも

夜空に輝く満天の星
地上に光る沢山の灯ひ

ペルセウス、^{ヘルクレス}英雄

アルゴ号

この地上にもやつと見えた
あの日あの時喪われた人の
面影が煌々と燃えているよ
いつもと同じように朝日は昇り
星はもう消えていった

僕の涙は何処へ消えた？

この空の下でこの地の上で

僕らは、求め続けた

真実だとか幸福^{しあわせ}だとか

生きることとか何もかも

歩き疲れた。今更になつて

でも大丈夫、もう諦めない

僕らの夢は絶えていない

この何も無い暗闇の中を

小さな明かりを灯して

僕はいつの日かきつと取り戻す

失った星を、なくした灯^ひを

今を生きてる僕の未来は

終わってないから

終わらせないから

片翼のLetter

もし迷惑だったら

無かった事にして下さい

悪いのは全部僕のせい？

だったら仕方ないかもね

流れる雲をいつも

目で追ってた君だから

きつといつかは僕の前から

いなくなるとは思ってた

髪を切って

「似合うでしょ？」って

笑った君眩しすぎて

笑顔に隠した傷にさえ

気付けないこんな僕で…

11小節のLove song

紙ヒコーキにしても

この雨の中じゃmy heart

飛ばないかもしれない

だけど

Where are you now?

君の行方も分からないから

空に向けて投げ飛ばすよ

片翼のworn-out letter

全てを見透かすような

眼差しが最初怖かった

今さらその目に優しさがあると

気付いても遅すぎる？

見えない誰かといつも

闘ってた君だから

何も言わずに一人きりで

いなくなるとは思わなかった

肩を抱きたいけれど

君はもう誰の物でもない

心に隠した秘密さえ

分け合う事も知らなくて…

本当の事言えば

give me a truth

言いたいことばかりで

それでも今度はeverything

話すことなんて出来ない

だけどdon't say good-bye

中身は僕の我儘だから

だから一言だけ書かせて？

片翼のworn-out letter

怖くて君にずっと

言えなかった事があるんだ

君が…ごめん

やっぱ言えないよ

次は絶対きつと送るから…

追い風が吹いたらfly away

この指を離すよ

そしたら僕のstray hands

中に何も残らない

思い出も夢も

幼気な未来予想も

空に向けて君に返すよ

片翼のw o r n - o u t l e t t e r

カイザクラ

人生ってどれほど誠実に生きても
上手いかないもんなんだね
頑張れば全てが善くなるだなんて
幻想ゆめでしかなかったわけで
浅瀬でしか生きられない俺等
汚れた水に流されて生きた
それを悔やむのなら

次こそ自分の殻固く閉ざして
己という不落の城を築こう
もしこの世に

また生まれ変わるなら

人には

ヒトにだけはなりたくない
深く暗い海の奥底
物言わぬ貝にでもなろうか

あの年齢としで

眩しい笑顔だけ残し

一人きりで奴は逝っちまった
サクラノキ。夕焼けを背に佇み

奴の遺言いひがた

ひとり反復ひたひた

寒さに耐え花開いたあいつ

散りゆく運命さだめと

分かつて咲いた

それを望むのなら

次こそ誰からの支配も受けない

太い樹の細い枝に

ひっそりと咲こう

もし庭の梢に咲こうとも

いずれは

いずれ散りゆく命なら

誰の手も届かないような

高みに花を咲かせようか

仰いだ夕焼け

消えたヒコーク

空へと続く

次への my thirteen step

いま踏みしめて

戦友^{とも}よもうすぐ

もうすぐ俺も

お前等の、お前の眠る所へ向かう

終極の testament ひとつ遺し

儚く静かに散って逝こう

もしこの世に

また生まれ変わるなら

人には

ヒトにだけはなりたくない

深く暗い海の奥底

物言わぬ貝にでもなろうか

P r a y i n g F o r …

癒えない傷を負いながら
ただ道を往く旅人よ
引き返すがいい。すぐ戻るがいい
動けなくなる前に

旅立つ君を待つものは
冷たい風と漆黒の闇
明けない夜はまだ続く
寒い日々もまだ続く
深い森に迷い込んだ
名もない弱き旅人よ
この出口への道標^{みちしるべ}
君には見えないはずだ
自分の運命^{さだめ}に従って
大人しくしていればよいものを…
癒えない傷を負いながら
ただ道を往く旅人よ
引き返すがいい。すぐ戻るがいい
動けなくなる前に

小雪の交じる向かい風
東の空に光明^{ひかり}なく
穢れも知らぬ柔肌^{なめ}に
刻まれたるは朱^{あけ}の条曇^{すじ}りはじめたその眼

見据える先は遙か遠く
都会の砂漠訪れて
すぐまた消える靴の跡
生きた証など残さずに
白いまま儚く消えてゆけば…
消せない罪を胸に抱き
歩き続ける旅人よ
諦めるがいい。すぐやめるがいい
倒れてしまう前に

それでも君は向かうのか
光を求めて、温もりを探して
（みつけて…）

冷たい雨に濡れながら
寒さこらえる旅人よ
ならば往くがいい
見せてあげよう
君の望む光を！

癒えない傷を負いながら
ただ道を往く旅人よ
引き返すがいい。すぐ戻るがいい
動けなくなる前に

カムパネルラの空

戦場のようなこの街で

僕らは傷だらけになりながら

目の前の相手を敵と見なして

何ひとつ信じられずに

誰かを愛する気持ちさえ

僕らは忘れて武器を取り

戦ってきた 傷つけてきた

戦場のようなこの街で

アスファルトの間に咲いた

名もない小さな花が

倒れ伏した僕の目の前で

踏まれて消えていった

僕らは誰も

この惑星^{ほし}に生まれ

誰かと出逢う運命ならば なぜ

傷つけあう必要があったのか

信じよう

僕らが呱呱の声をあげて

生まれてきたのは

傷つくためだけじゃない

休戦の夜が訪れても

星は刻々と姿を変える

過去に多くの人が同じ過ちを

繰り返してきたというのなら
僕らもまた同じ過ちを

同じ星空を見上げた後で
やはり繰り返して

しまうのだろうか

休戦の夜が訪れても

小さな子供の中に芽生えた

無邪気すぎる夢でさえも

僕らの犯したこの過ちは

摘み取ってしまうのか

僕らは誰も

この惑星^{ほし}に生まれ

誰かと出逢う運命ならば なぜ

愛しあうことが難しいのか

信じよう

僕らが呱呱の声をあげて

生まれてきたのは

悲しむためだけじゃない

今は銀河の向こうにいる

僕の知る幼い子供ならば

萎れた花をアスファルトの亀裂に

植え直してくれるだろうか

僕らは誰も

この惑星^{ほし}に生まれ

誰かと出逢う運命ならば なぜ

傷つけあう必要があつたのか

信じよう

僕らが呱呱の声をあげて

生まれてきたのは
傷つくためだけじゃない

僕らは誰も

この惑星^{ほし}に生まれ

誰かと出逢う運命ならば なぜ

愛しあうことが難しいのか

信じよう

僕らが呱呱の声をあげて

生まれてきたのは

悲しむためだけじゃない

exit

‘ Don’t run away! -

You have been saying to
yourself.

君の口癖憶えてるよ

‘ Don’t run away! -

でも目を逸らさないで
目の前のexitからは

人として強いって

どういうコトなのかな

拳や言葉で戦うのも

悪くないよね

but, you?

気付いてないフリして

非常口から目を逸らしてる

通気孔まで塞いだら

心がパンクしちゃうよ

君に求めているのは

神話の英雄なんかじゃない

気弱な少年のままで

欲しいのはyou and 愛^{あい}

‘ Don’t run away! -

You have been saying to
yourself.

君がいつも吐いてたセリフさ

‘Don't run away!-

でも心のexit

カギだけ開けておこう

世界の人を救うとか

大それたコト言えない

たとえいくら強くなっても

争いはendlessだから

so you,

唇噛み締めながら

部屋に入っていった

溜め込みすぎた涙で

堤防が決壊しそう

君が求めているのは

救いの女神だけなのかい

気弱な少年のままで

欲しいのは 優^{ゆう} or me?

‘Don't run away!-

You have been saying to

yourself.

君の口癖憶えてるよ

‘Don't run away!-

でも目を逸らさないで

目の前のexitからは

‘Don't run away!-

You have been saying to

yourself.

君がいつも吐いてたセリフさ

‘Don’t run away!’

でも心のexit

カギだけ開けておこう

‘Don’t run away!’

You have been saying to
yourself.

サカミチ

ボストンバッグだけを片手に
鈍行待ってた夜空の下
時計の針一周する頃
俺の隣に誰がいるんだろう

春も酣な午後三時半
カラリ晴れ上がった青い空
タバコの煙空の向こうへ
口元から緩く昇ってく
あの広い空を見上げてごらん？
何もかもどうでもよくならない？
青い空も真っ白な雲も
俺にはバカバカしいだけなのに
そんなんで心が晴れんなら
神様仏様いらねーつつう…
雲が余裕かまして泳いでる
吸殻ポイ捨てして
キーを回して
訳もなく雲追いかけてた
疲れ果てた旅の果てに
俺等は何を思っただろう
この長い長い登り坂を
ガムシヤラに駆け上っていくよ

風も冷えてきた午後五時過ぎ

藍色の増した夕暮れの空

ウィンドブレーカーたなびかせ

メットの下で泣き濡れてた

俺が間違ってんのは知ってる

けどヤツはホントに正しいのか？

流す涙は泣いたからじゃない

煙が目にしみていただけさ

そーいや誰かが言ってたよな

人は誰でも旅人なのさと

自分の心口ずさみながら

目指した物に巡り合うまで

歩き続ける旅人なのさと

歯を食い縛り汗水流し

俺等は何を手にするんだろう

どこまでも続く下り坂を

ハンドル一杯握りしめて

俺そつくりの六等星が

ちっばけな幸せ歌ってる

君そつくりの名もない星が

ちっばけな幸せ祈ってる

俺と一緒に旅に出ないか？

君の小さな手を握るから

どこまでも一緒に行こうよ

このサカミチの向こう目指して

登り下りなんて関係ない

ただ見る方向が違っただけ

いつかはそう思えるんだろう

何だかそついう気がする

疲れ果てた旅の果てに

俺等は何を手にするんだろう

M i a r c o i r i s

晴れた空が涙するとき
虹を架けることができた
それは君の青になるから

よく晴れた週末なのに
君は浮かない顔をしてるね
青い海はもう目の前なのに
どこか遠くを見てるみたい
心に溜まった涙の雨は
この波に流してもらおう
次のカーブ切ったら ほら
海はもうすぐそこだよ

M i a r c o i r i s
顔を上げるなんて言わないから
前を見るだなんて言わないから
だけど負けないで自分だけには
逃げないで自分からは
君は私を信じなくていい
君は私から逃げてもいい
でも君はもう一人じゃないよ
Y o c r e e r a h o r a

土砂降りの連休には
てるてる坊主を吊るしておくよ

君の心が晴れるように
新しい朝に日が昇るように
胸に蓋した醜い感情は
この雨で洗い流せばいい
新しいカーテン開けたら ほら
太陽が笑っているよ

M i a r c o i r i s
もう泣くななんて言わないから
もつと笑えなんて言わないから
だけど嘘つくな自分だけには
嫌になるな自分からは
君は私に嘘をついてもいい
君は私を嫌いになってもいい
でも未来は君を離さないよ
Y o c r e e r f u t u r o

夢や希望や星や綺麗なもののほど
虹のようにすぐ消えてしまうつて
教えてくれたのは君だったよね
だから今度は私の番だよ
晴れた空が涙するとき
虹を架けることができたなら
それは君の青になるから

M i a r c o i r i s
顔を上げるなんて言わないから
前を見るだなんて言わないから
だけど負けないで自分だけには
逃げないで自分からは

君は私を信じなくていい
君は私から逃げてもいい
でも君はもう一人じゃないよ

もう泣くななんて言わないから
もつと笑えなんて言わないから
だけど嘘つくな自分だけには
嫌になるな自分からは

君は私に嘘をついてもいい
君は私を嫌いになってもいい
でも未来は君を離さないよ

このまま終わりはしないよ
… 信じてるから

聖なる夜のCECADA

今年もまたやって来る

恋人たちの望むwhite Christmas

それでも季節外れの僕らは

アイノウタさえ歌えない

心も凍てつくような夜

贈る相手はいないけど

今宵この羽震わせて

聖夜に奏でるmy last love song

涙こらえて耳を澄ませば

鐘の音が聞こえる…

Wish you a merry Christmas

and your fortune

灰色の空の下の

lonely, holy night

Wish you a merry Christmas

and your tomorrow

君が望んだ雪なのに

今宵、僕の隣に誰もいない

サンタなんていやしいさと

嘯いていたDecember days

短い春は冬に来るのさと

北風がそう僕に囁く

歳末までの2週間で

どれだけ歌を残せるだろう

今宵この羽震わせて

君達に贈るmy Christmas song

細い枝越しに空を見上げれば

小雪が舞っている…

Wish you a merry X-mas

and your fortune

憂いを忘れて過ごす

cold silent night

Wish you a merry X-mas

and your tomorrow

寄り添い暖めあう季節に

今宵、僕は今日も一人きり

赤鼻のトナカイだけじゃなく

聖夜のセミにも夢をください…

Wish you a merry X-mas

and your fortune

灰色の空の下の

lonely, holy night

Wish you a merry X-mas

and your tomorrow

君が望んだ雪なのに

今宵、僕の隣に誰もいない

Wish you a merry X-mas

and your fortune

憂いを忘れて過ごす

cold silent night

Wish you a merry X·mas
and your tomorrow

寄り添い暖めあう季節に

今宵、僕は今日も一人きり

聖なる夜のcicadaにも
愛をください

3日遅れのHappy Birthday

スケジュールのカレンダー場面

記念日登録 君の誕生日

とつくに消したはずなのに

まだ残っていた

二度と探すこともないと

思っていた君のメアド見つけ

白い画面ずっと眺めては

贈る言葉搜してる

夢と現実の狭間に立って

互いに意地を張っていたんだね

遠ざかる君の背中に

ヒゲラシが哀しく鳴いていた

3日遅れのハッピーバースデー

君のいない9月の恋

二十歳になった君

きつと綺麗だよ

このまま Long gond - bye

誕生日祝う一通のメール

書いては消しての繰り返し

保存BOXにひとつだけ

誕生日おめでとうの文字

二度と会うこともないと

別の道を歩み始めていた

夏の終わりを告げるナデシコが
道端に咲いてたっけ

大人の仲間入りを果たして
新しい恋を探したっていい
描きかけの人生のデッサン
破り捨てることはない

3日遅れのハッピーバースデー
君のいない9月の朝
二十歳になったとき
送れなくてゴメン

このまま LONG GOOD - B Y E

3日置いた保存メール
ためらいながら眺めてる
言葉の裏の葛藤と未練
君に見透かされそうで

3日遅れのハッピーバースデー
親指一本の勇氣出して
二十歳になった君に贈ろう

9月のMy last mail

3日遅れのハッピーバースデー
返信なんてしなくていいよ
二十歳になった君
一目見たいけど

今は LONG GOOD - B Y E

B・Jでヨロシクdealer

手際よく手札^{カード}切るんだね

その目付き 挑発してるの？

伏せられた52枚のカード

勝負が始まる

これきりで終わらせはしない

お前を逃がさない

21(twenty one)のカードの中に
ハートのA^{エース}が見えるまで

絵札みたいなfaceやめなよdealer
隠^{かお}してる表情

お見通しなんだよ

イカサマなんて逃げ道は
通用しない

どんな手段^テを使ったの？

最強の切り札 21のカード

私の勝ちよ って笑うんだね

勝負はこれから

お前にだけは負けられない

どこへも行かせない

スペードのJ^{ジャック}と

スペードのA^{エース}

わざと尖端で突きつけた

betなんかでごまかすなよdealer

賭けたのはそう お前なんだよ
まだまだよ なんて言う間は
折れやしない

何を喪うことを恐れているの
それを俺に言い当てられた
お前が自分捨てて逃げるなら
出口塞いで追いつめてでも
きつと勝利を捕まえに行く

勝負を途中でpassすんだよdealer
勝ち負けはもう決まってるだよ
不戦勝なんて勝ち方は
性に合わない

so 潔く負けを認めなよdealer
俺の勝ちは分かりきってるんだよ
勝ち目のないような切り札も
捨てやしない

君に乾杯 　As time goes by

Here's to you.
It's awful not to be loved.
So we're not gonna be
lonely anymore.
As time goes by.

みんなからのリクエスト
まだまだお待ちしています
ここで次のお便りをご紹介します
P・N “キミにカンパイ”さん
「今の歌にもありましたが
どうして愛されないと
辛いのでしょう？」

“キミにカンパイ”さんへの
アンサーソング
こちらまでお送りください
まあボクとして思うのは
同じ歌の中に答えが隠されている
そんな気がしてならないのですが
探してみませんか？ 一緒に
Here's to you.
It's awful not to be loved.
So we're not gonna be
lonely anymore.

Ever, ever.
You can make of your self
anything you want, cause
we're the people.
As time goes by.

少しはお役に立てましたか？

P.N “キミにカンパイ”さん
ここでアンサーソングが

届いてますので紹介しますね

「愛されないのは辛いコト

だからボクたちはもう

寂しくない

人は自分を好きなようにできる

だって人間なんだから”

Here's to you.

It's awful not to be loved.

So we're not gonna be

lonely anymore.

Ever, ever.

You can make of your self

anything you want, cause

we're the people.

As time goes by.

愛を探してボクらはすれ違い

その摩擦で胸が

擦り切れそうになる

今は辛くてもそのうち治りますよ

時の往くままに…君に乾杯

H e r e ' s t o y o u .

I t ' s a w f u l n o t t o b e l o v e d .

S o w e ' r e n o t g o n n a b e

l o n e l y a n y m o r e .

A s t i m e g o e s b y .

H e r e ' s t o y o u .

世界で一番辛いことを

乗りきれたのだから

A s t i m e g o e s b y .

S e e y o u a g a i n ,

“ H e r e ' s t o y o u ” .

GOOD DAY!!!

そうさ毎日が

GOOD DAY!!!

春眠不覚曉（春眠曉を覚えず）

雨の日曜ぬくぬく二度寝

あと100分だけ…あと何時間？

目が覚めたら10時ジャストでした

Which do you like

cookie or chocolate?

どっちも大好き選べるもんか

熱伝導なんてどうでもいいの

あつたかい紅茶があれば

幸せティータイム

授業じゃ教えてくれない

幸せの見つけ方だね

何と（710年）でっかい平城京より

でっかい夢見て生きていこうよ

GOOD DAY!!!

諦めってなに？

壁なんてぶち当たって当たり前

辛good dayもしんどgood dayも

ホラ、すぐそこに隠れてる

GOOD DAY!!!

ダダダダーン！！な運命の出会い！？

恋はいつだって体力勝負

情報収集 ネットの恋占い

【手料理で彼のハートをGET】

彼とのどーでもいい時間も

私のでっかい夢のうち

絵に描いたような展開：

なんて言われたって平気

GOOD DAY！！！

引くってどういうこと？

障害があるほど燃えるもののさ

悲しgood dayも寂しgood dayも

ホラ、キミの近くにいますよ

GOOD DAY！！！

幸せは追うもんじゃない

なんとなく傍にいてくれて

そつと見守ってくれている

そんなカンジです

だ・か・ら

GOOD DAY！！！

ネガティブOFFモード

生きることだけ頑張ろうぜ

未来が遠good dayも、ホラ

毎日がfresh good day

キミがいることが

嬉しgood day！！！

おやすみなさい

永遠のものなんてないと

分かってたはずなのに

いつもより静かな朝には

まだ慣れないまま

2つ並んだペアのマグカップ

君の脱け殻がまだ隣にいる

忘れたくて

でも会いたいと願ってしまっ

叶わぬ夢だと何百回

自分に言い聞かせても

おやすみなさい

そう言われた夜は

こんな日が訪れるなんてことに

気づかないフリして

ただ目を閉じてた

今はもう聞こえない声

missing:

空の上は高すぎないか

四角い写真の中の笑顔で

君の欠片^{かけら}を

手放せないでいる

僕を笑ってることだろう

永久^{とわ}のものなど求めないで

そう聞こえる

君の事を忘れて今日を

生きてゆけというのか

さようなら　を言うために僕は

君と出逢ったようなもののなに

背を向けて見えないと

駄々をこねてた

まだ認められないまま

missing:

両手の指の間をすり抜けてゆくよ

掬い上げた命でさえも

水や砂が零れ落ちてゆくように

ただそれを見ているだけと

自分の非力を嘆くしかないのか

キャンドルに灯した火が消える

暗闇の中　寂しさだけが残った

手探りでもいい

また明かりをつけよう

だから今は君に一言

good night:

雪那くセツナく

灰色の街を白く染めるため
今年もまた雪が降り始める
コートの肩にふわりと乗った
結晶が溶けて消えていった
元気でいますか
そちらもいま雪ですか
細雪の舞う空の上から
届かない声で君に叫ぶ
きっと君は生きてゆくんだよ
神様がくれた時の許す限り
空で生まれて地上で消える
雪のように儚い命でも
君はここで何かを見つけて

町中に雪が降り積もるように
私の心に哀しみが募る
粉雪が手のひらで溶けるように
私の想いも消えていくの
忘れていませんか
憶えていてくれますか
もうすぐ去り行く雲の上から
刹那の祈りを君に願う
きっと君は幸せになれるよ
神様がくれた縁の続く限り

永遠のものなんて信じない
君はそう言うに決まってるけど
私はここで君を見守るよ

空をいま見てますか

もうすぐ雪がやみます

灰色の街 佇む君に

刹那的に叫ぶこの声 届け

きつと私飛んでいけるよ

この背中には翼が生えている

君がひとりで泣いているとき

いらないとそうたと言われても

ずっと傍にいるよ

…君の

花と蝶

何を求めているの

迷い子のように花から花へ

美しい羽ヒラヒラさせて

僕のもとへは来ないのに…

誰を待っているの

同じ場所にずっと咲き続けて

全てをさらけ出すようにして

私だけは拒むくせに…

ねえ…少し休みなよ

その脆い羽を僕にあずけてさ

ねえ…少し休ませて

その薄い花弁に羽を預けていい？

それとも

それとも

自分じゃダメなの？

あなたは知っているでしょうか

僕が私があなただを求めていること

でも美しいその姿見てると

躊躇ってしまう

その美しい花弁は

一時のものなのね

知っているからこそ近づけない

とまったら散ってしまいそうで…

その美しい羽は

一時のものなんだね

知っているからこそ触れられない
触れたら逃げていきそうで…

ねえ…とまってもいいの？

私の過去を知っていても

ねえ…近くにいてくれる？

僕の短い時間に気づいても

本当に

本当に

自分でもいいの？

あなたは知っているでしょうか

私が僕がどれほど弱いかを

でもあなたとならどんなことでも

乗り越えられる

ねえ…僕を許して

脆い羽を手放してしまう弱さ

ねえ…私を許して

薄い花弁から飛び立つ勝手さ

それでも

それでも

待っている

帰ってくる

あなたを信じて

あなたは知っているでしょうか

この先に待つ幾多の困難を

でも二人一緒にいられたらきつと

平気…だよ

モノクロームにカラー

ヘッドライトに映し出された

ふたつの影法師

外側線の内側

くっついて歩いたよね

凍えた手 あなたが

手袋の片方かしてくれて

ありがとうって言ったら

あなた照れ笑いしてた

ケンカしたし

酷いこといっぱい言われたけど

それは全部

あたしのためにくれたコトバ

あの日まっ白だったキャンバスに

あなたが色をのせてくれたから

いまあたしはあなたの隣で笑っていられるんだよ

あなたに出逢えて

ホントよかったよ

あなたがあたしに

教えてくれたから

あなたのおつきな手に

あたしの手を重ねてみた

手のひらで奪われてゆく

あなたの温もり

ずっと感じていたくて

そっと手を握った

ワガママだし

意地悪されて嫌いだったけど

それは不器用なあなたの

精一杯の愛情

あの日モノクロームだった景色に

あなたが絵の具つけてから

いま夜道の街灯の白さも

見えるようになったんだよ

あなたに出逢えて

嬉しかったよ

あなたがあたしに

教えてくれたから

…だいすき

あの日

モノクロームしか知らなくて

あなたが乱暴に色をのせたから

いま目の前に広がる景色

カラフルになったんだよ

あなたに出逢えて

ホントよかったよ

あなたに出逢えて

嬉しかったよ

あなたがあたしに

教えてくれたから

…だいすき

変わらないで

いつかは散ると分かっている
花は毎年咲き誇る
いつか別れると知っていて
あの日僕らは目を合わす
それから共に泣き笑い
肩を抱いては傷つけて
君と交わしたこの友情
本物だったと今さら思う
時は止まることを知らず
確実に来て
季節は僕らを急かすように
移り変わる
サヨナラを口にできず
ずっとはしゃいでいた
だから今ちゃんと言うよ
いつまでもそのままの君で
変わらないで 変わらないで
変わらないで いつまでも
変わらないで 変わらないで
素敵な君のままで

僕らはいずれ大人になり
時代の波に揉まれながら
ささやかだけど確かな幸せ

手に入れるため頑張るんだろう
もう僕たちは自分の足で
もう僕たちは自分の目で
しっかり前を見つめながら
歩くことができるのだから
与えられた幸せは
桜のように儚く散って
手に入れない幸せは
花びらのように掴みにくい
それでも僕らは
幸せを探しに旅立つんだ
だから今ちゃんと言うよ
いつまでも大きな夢を持って
変わらないで 変わらないで
変わらないで いつまでも
変わらないで 変わらないで
無邪気な君のまま

この何千億の時の中で
巡り会えた奇跡
この何十億の人の中で
巡り会った運命
僕らは今別々のゴールに
向かおうとしている
だから今ちゃんと言うよ
いつまでも僕を忘れないで
変わらないで 変わらないで
変わらないで いつまでも
変わらないで 変わらないで
素敵な笑顔で

変わらないで
変わらないで
変わらないで
変わらないで
会いに行くよ
この場所に
いつまでも
いつかまた

愛しのダメダメmy darling

友達に紹介するのも躊躇う

私のダメダメ彼氏サマ

マントつけたって空も飛べない

眼鏡は正体隠すためじゃない

ピンチに陥って送ったメール

HELP！ 送信

それから2時間後

気づかなかつたよ

ゴメンナサイ って

危機一髪も救えないのかっ！

He's not hero.

分かっちゃいるんだけど

He's not knight.

寄り掛かりたい時だつてあるのよ

変身なんて出来なくてもいいの

私を受け止めてさえくれれば

どうしてこんな男に

惚れちゃったりしたんだろう

春のせいかな

そんなあなたに1つお願い

メールは“だよ”とか

文字を小さくしないでね

スーパーマンになれそうもない

愛しのダメダメ彼氏サマ

ビール1杯ですぐ寝ちゃう

車に乗ったらすぐ事故る

待ち合わせ時間 10分経過

来ない来ない来ない

それから30分後

寝坊しちゃってさ

ゴメンナサイ って

期待どおりに現れないのかっ！

H e ' s n o t w i z a r d .

そんなこと知ってるけど

H e ' s n o t g o d .

淋しすぎるときだつてあるのよ

魔法なんて使えなくてもいいの

私を傍にいさせてくれれば

どうしてこんな男を

好きになつたりしたんだろう

誰の仕業かな

そんなあなたに1つお願い

デートの勝負服

ちよつとは流行取り入れてね

どうしてこんな奴を

愛しく想っちゃったんだろう

仕方ないかな

そんなあなたに1つお願い

プロポーズくらいは

絶対あなたからしてね

君はシェヘラザード

月が消える 黒い空に
風に散っていった花びら
紅いルージュつけた君が
ネオンの中に溶けていく
誰のために 何のために
金と欲望の檻の中
グラスに映る君の瞳
どこか遠くを見ている
涙見せてもいいよ
また声が出るまで
君はシェヘラザード
弦の切れたリユート
歌を忘れた夜の小鳥
今夜俺が歌を奏でる
コンソラメンテ
できれば 君から欲しい
湖^{うみ}が蒼い 白い砂漠に
誘蛾灯というオアシス
飛んで灯に入る虫たちが
水の中に溺れて^{はな}
千と一の夜の人生
語ることはいらない
トウルバドール 渡り鳥の

俺が言えたことじゃないけど

今夜は眠ってもいいよ

俺が代わってやるから

君はシエヘラザード

偽りの貴女きじょ

着飾らされた夜の人形

次の話 できあがるまで

ずっとここで詩を歌うたう

君はシエヘラザード

弦の切れたリユート

歌を忘れた夜の小鳥

今夜俺が歌を奏でる

コンソラメンテ

できれば 君から欲しい

硝子のカケラ

目の前に現れた旅人
傷だらけで血まみれの手
ぼんやりとカケラを見るその目
涙を張った左のブルー
悲哀宿す右のグレーに
映し出される色硝子の破片

あの人に訊いてみた
どうして君の手は
そんなに傷だらけなの
あの人へ答えた
コレを拾ううちに
自然に出来てたんだよ
手にとって見せてくれた
極彩色の硝子片
そしてふと気付いた
カケラは忘れられた夢や
思いでの残骸なんだと
この世に生まれてきた
それだけで良かったはずだ
望むものなど無かったはずなのに
これ以上を求めてしまう
時代の流れに逆らえず
欲に溺れる自分を笑ってくれよ

その人にまた訊いた
カケラを集めて
それからどうするつもりなの
その人は苦笑^{わら}って
答えてくれなかった
けどそれが答えだった
カケラ組み合わせたら
一体なにが出来るんだろう
それを叩きつけて粉々に砕いた
自分が思うのも変な話だけど
生きることを許された
喜ぶべきことだったはずだ
感謝すべきだったはずなのに
助かりたいと願ってしまふ
環境にすべて押し付けて
動けもしない自分を笑ってくれよ

悲劇の一人舞台
すべてが自作自演の
ステージで何を演じてやろう
誰もいない観客席
早くカケラを集めて
自分の手で幕を下ろさせてくれよ

モナミ

真つ白なドレスに身を包み
先で待つてゐるあいつのもとへ
ウェディングマーチ鳴り響く中
歩く今の君 とてもキレイだ
長いベールが尾を引いて
僕の隣を通り過ぎてく
もうすぐ君はあいつと一緒に
永遠の愛を誓うんだね
新郎新婦なんて響きに
実感なんて持てないよ
言うつもりなんてないけれど
まだ君のことが好きだから
モナミ 僕の大切な友達
好きな人は誰？ って
訊かれたあるとき
正直に言つておけばよかった
おめでとう 幸せになれよ

宙に舞うキャスケットブーケ
女の子たちが皆狙つてゐる
僕もあれを手に入れたら
君をあいっから取り戻せるかな
フラれたよ そう不意に言われて
運命の相手は目の前にいるよ

冗談で言ったら笑ってくれたね
でもあれ 半分本気だったんだ
白馬に乗った王子様を

ずっと夢見てた君がまさか
神様の見守る前であいつと
キスするとは思わなかった

モナミ 僕の大切な友達
運命の人や赤い糸を信じてたのは
僕の方かもしれないな
おめでとう 幸せになれよ

僕の弱さは優しさだから
これ以上残酷な嘘はないよ
好きだと伝えて君とあいつと
今ある3人の間の幸せ
失うことだけが怖かった

モナミ 僕の大切な友達
教会から君を連れ去るなんて
僕には出来やしないさ
好きだから絶対に教えてやらない
今の僕の気持ちを

モナミ 僕の大切な友達
王子様が迎えに来たよ
ちよつと悔しいけど
あいつだからきつと許せるんだ
幸せになりな dear my friends

ありがとう

いま君に何を何回くらい

言ったらいいんだろう

ありがとう ありがとう

何万回言っても足りないよ

自分の持つてる一番古い記憶は

おばあちゃんが死んだときで

それから自分の周りで何かが

少しずつ欠けていったんだ

引っ越していった幼馴染み

10年間一緒だったペット

不合格だった第一志望校

なくしてばっかだと思ってた

だけど違ったんだね 本当は

いつでもどこでも

どんなときも傍にいてくれて

淋しさ慰めてくれてたんだ

ありがとう

ありがとう

ありがとう my friends

いま君に何をしてあげたら

喜んでくれるんだろう

あれもして これもして

何やっても返しきれないよ

どうせなくすしかないのだから
ひとりでもいいと強がっていた
そしたら自分はいつの間にか
本当にひとりになってたんだ
友達　なんて一時のもので
就職や結婚とかしたら
自分の優先順位　下がって
忘れられると思ってた
だけど違ってたんだね　本当は
いつでもどこでも
どんなときも君は自分の
友達でいてくれると言った
ありがとう
ありがとう
ありがとう my friends

置いていかれるのが怖いから
ずっと先ばかり見て走ってた
でも　だんだん距離は遠くなって
もう届かないと思ってた
だけど違ってたんだね　本当は
立ち止まって周りを見てみたら
追いかけてくれて
ついてきてくれてたんだ
ありがとう
ありがとう
ありがとう my friends

愛される努力じゃなくて
愛する努力をしてみるよ

ありがとう

ありがとう

ありがとう
my

f
r
i
e
n
d
s

両親への手紙

お父さん お母さん

今までありがとうございました

これからふたりを見習い

幸せな家庭を築いていきます

ツクツクボウシが鳴く頃

生まれたと聞きました

礼儀正しい子になれと

名付けられたと知りました

名前負けと言われ続け

重荷に感じたこともあったけど

今ではふたりに感謝してます

ふたりの愛情に気付いたから

私は少しでもふたりの

理想の子供になれたでしょうか

あなたのため その言葉が

エゴに感じたこともありました

これからは愛という名の

プレッシャーに負けないで

生きていきたいと思います

実は私ふたりに

秘密にしていたことがあります

お母さんのドレッサーの中

母子手帳を見つけました

生まれた時間 体重

その後の成長の課程

細かく書かれていることに
とても驚きました

どちらに似てるとも言われず

不安を感じたけど

今では心から信じてます

確かにふたりの子供だと

私は少しでもふたりの

期待に応えられたでしょうか

共働き という言い訳で

愛されてないと誤解してました

これからは孤独という名の

被害妄想に打ち勝って

生きていきたいと思います

思春期 大人になりかけて

自分から距離を置きました

自分から溝を作っておいて

勝手なことばかり言っていました

でも本当は憶えています

私が迷子になったとき

お父さんお母さんと泣き叫んだら

すぐにふたりが駆けつけて

来てくれた日のことを

私は少しでもふたりの

心の支えになれたでしょうか

ふたりの本当のありがたみは

私が親になって

初めて分かることでしょうが
これからは大切な人と
生きていきたいと思います

お父さん お母さん この春

ふたりの孫が生まれます

ふたりのくれた愛情

この子の名前にします

僕の翼を君にあげよう

僕の翼を君にあげよう
こんなんじゃ青い空は
翔べないかもしれないけど

君はこの世に必要なだから
要らない僕の翼をあげる
人の背負うべき罪を全部
自分ひとりで抱えるのなら
君はとても優しくて

素晴らしすぎる人だから
ごめんね 君を裏切らせて？
これしか方法がないんだ

全ては神の思し召し
バイブル
聖書に記された
ゴスペル
福音どおり

君が役目を果たすならば
僕は僕の役目を果たすよ
僕の翼を君にあげよう

君の望むような
まっ白い羽根じゃないけど
空を飛んでよ 皆のためにも
こんなんじゃ青い空は
翔べないかもしれないけど

僕は君の仲間みたいに
馬鹿正直になりきれないから
君と僕との切れない関係
いつしか気付いてしまったんだ
君は皆の偶像^{アイドル}として
愛されるべき人だから
JUDAS（裏切り者）と
言われてもいい
それが僕の役目ならば
その昔 僕らの父と母が
禁忌を侵したその償いを
君が果たすと決めたのならば
僕も自分の宿命を果たすよ
僕の翼を君にあげよう
痛々しいそんな姿
ずっと見ていたくない
復活してよ 皆のためにも
こんなんじゃ晴れた空へ
昇れないかもしれないけど

僕は鏡に映る君の影
君にとってもよく似た
正反対の存在だけど

僕の翼を君にあげよう
君がイバラの冠ならば
僕はセイヨウハナズオウの下
口づけさせて 僕のためにも
こんなんじゃ青い空は
翔べないかもしれないけど

愛する人よ世界を救えっ！！

愛する人よ世界を救え！！

無理だよなんて言うのならboy

私を変えてあ・げ・る

清く正しく美しく

野心だけ胸に秘めて

絶対無敵の恋する気持^{パワー}

あの人を知ってから私

強くなれた気がするの

今日は彼との祝 初デート

何を着ていけばいいの(？|？)

カワイイ系とキレイ系

どっちのが好みかしら

セクシー系とか言われちゃったら

ちよつと修行が必要だな(；|；)

私をこんなに変えたのだから

この世界だつて変えられるはずよ

愛する人よ世界を救え！！

電話でもOK メールでもOK

そっちから告つてよboy

左耳にしたピアス

あなたのマネしたの

…なんて言えないわ(＜|＞)

無理だよなんて言うのならboy

私を変えてあ・げ・る

清く正しく美しく

野心だけ胸に秘めて

絶対無敵の恋する気持^{パワー}

クラシカルな服を着て

ミュージカルでも見に行つて

オシャレなcafeでホッと一息

そんなdateしてみたいわ(^-^-)

クリスマスやバースデー

プレゼント交換して

別れ際にそつと『ちゅっ』して

そんな風になりたいわ(ノノノノ)

恋に恋する乙女の心を

ここまで本気にさせたのだから

愛する人よ世界を救え!!

カラオケでもbarでもOK

2人きりにしてよboy

デートの帰りにさりげなく

あなたが好き

：なんて言えないわ(<|>)

無理だよなんて言うのならboy

私を変えてあ・げ・る

清く正しく美しく

野心だけ胸に秘めて

絶対無敵の恋する気持^{パワー}

愛する人よ世界を救え!!

キミのあおぞら

涙ぼとり落ちた目に

飛び込んできた空の蒼

灼熱の砂漠に影ひとつ

過ぎ行くは誰の面影

恋しいという切なる願いは

旅人の落とした時の砂

弱いままでいい強くなれ

自分の足で歩けるように

天空に広がるその蒼を

お前のものにするために

身体の中あたたかいこと

訴えてくる吐息の白

凍える空に銀の星

輝くは誰の面影

逢いたいという切なる祈りは

詩人の遺した言の葉

届かなくていい手を伸ばせ

いつかその手で掴めるように

夜空に散らばるあの星を

お前のものにするために

弱いままでいい強くなれ

自分の足で歩けるように

天空に広がるその蒼を
お前のものにするために

交互に顔を出す太陽と月
お前のその手で受け止めるために

十三夜

其が心は 十三夜の月

其が悲哀は かかる叢雲

其が涙は 恵みの雨

其が言葉は 花揺らす風

月の満ち欠けは

盛者必衰の理^{ことわり}

潮の満ちたるとき

あとは引くのみを知る

人生は遙かなる旅路

されど汝^{なれ} 旅人に非ず

天津彼方 導きし門

今まさに 開きけり

曇りなき十三夜

ただ愛しの汝を待つ

水面に映りし 月は夢幻

望月にかかりし 雲は現^{うつろ}

花弁散らせし 風は試練

眼に浮かぶ 雨はいずこ

潮の満ち引きは

諸行無常の響き

月の欠けゆくとき

春の夜の夢と知る

生きたいと叫ぶ

魂たまの聲ねは

風の前の塵に同じ

永き旅の終わりし其そののとき

汝なれ何を悔やみ思わん

曇りなき十三夜

愛しの汝を待つ

Inspiration Perspiration

あとのくらい頑張ればいい
忙しい日々 目眩おこしそう
フラフラになる まだ足りないの
何をどうすりゃ気が済むんだい
昔ある偉い人が言ってた
99%のperspirationで
1%のinspiration補える
何を根拠にそう言えるんだ
乾いたカラダに水をくれよ
乾いたココロに愛をくれよ
ほんの少し休めたなら
温めたベンチ
そろそろ立ち上がろう
そして人は言う
「ガンバレよ」

まだ頑張れる そう人は言う
そんな理由がどこから出てくる
立ち止まるなと誰かが言った
そんな都合はないだろうに
昔の偉い人は知っていたのか
1%のinspiration無かったら
99%のperspiration全部
どうしようもない

意味がないだろ

疲れたカラダを癒してくれよ
疲れたココロを癒してくれよ
ほんの少し安らげたら

新品同様のグローブをとろう

そして人は言う

「負けるなよ」

頑張る必要などはない

勝つ必要などありやしない

分かっているのに立ち止まらない

数字ばかりに気をとられて

G A M Eを楽しめない…悲哀…

乾いたカラダに水をくれよ

乾いたココロに愛をくれよ

ほんの少し休めたなら

温めたベンチ

そろそろ立ち上がろう

そして人は言う

「ガンバレよ」

疲れたカラダを癒してくれよ

疲れたココロを癒してくれよ

ほんの少し安らげたら

新品同様のグローブをとろう

そして人は言う

「負けるなよ」

だから俺は言う

“ N
o
p
a
i
n
s
,
n
o
g
a
i
n
s
?
N
o
!”

ハッピーバースデー

どうしたら… ずっと答え捜して
フラフラな足取り見ながら歩いた
自分の人生自信なんてないけど
間違った人生選んだわけじゃない
愛が生み希望が育てた生命
満面の笑顔で問われた使命
いつか大人にならなきゃいけない
素敵な夢全部叶えてもらいてえ
いつの間にか大人になってた
急いで次の場所に駆けてた
空を見ることができなかった
だけど やつと見つけた
生まれてきてくれたことに
今日まで生きてくれたことに
ケーキのローソク増えたことに
素直に言おう
「おめでとう」の言葉を
この世に生んでくれたことに
ここまで育ててくれたことに
今日まで生きてくれたことに
照れながら言う

「ありがとう」の言葉を

Happy birthday to you .
Happy birthday to me .

幼いあの日 曇りのない目で
明るく笑っていたんだろうか
一番古いアルバム中に
夢に溢れた一枚の写真

自分の中で膨らんでく愛

誰かに与えるべきそれに気付き
自分の持ってたバトンをパスし
そして次に繋げた

生まれてきてくれたことに

今日まで生きてくれたことに

ケーキのローソク増えたことに

素直に言おう

「おめでとう」の言葉を

この世に生んでくれたことに

ここまで育ててくれたことに

今日まで生きてくれたことに

照れながら言う

「ありがとう」の言葉を

H a p p y b i r t h d a y t o y o u .

H a p p y b i r t h d a y t o m e .

H a p p y b i r t h d a y t o y o u .

カンシャしてます

H a p p y b i r t h d a y t o m e .

袋綴じの過去を

切り裂いてくれ

君の手で

この袋綴じの過去を

ためらわないで

頼むから

この哀しみを

消し去ってくれ

知られたくない

知られてはならない

穢れた歴史の1頁^{ページ}

血と汗と涙で汚れた1コマ

綺麗に彩られたグラビアの中

嗚呼、なぜこの重い記憶を

ひとり背負うんだろう

嗚呼、どうしても門外不出

そんな過去に押し潰されそう

もう破ってくれ

捨ててくれ

この偽られた筋書きを

迷うことはない

さあ早く

この罪深さを

永久^{とわ}に消してくれ

見られたくない

見られてはならない

隠したい歴史の見開き頁 ページ

正義と悪の利己的感情の対立

戦災う人の蝉時雨の裏に

嗚呼、なぜこんなにも

惨い責務があるのだろう

嗚呼、絶対的な秘密主義者

そんな奴等に神よ、制裁を与えよ

切り裂いてくれ

君の手で

この袋綴じの過去を

ためらわないで

頼むから

この哀しみを

消し去ってくれ

胸の奥がまだいたい

傷が塞がつていないのか

身体が干切れそう ち切れ

この痛み

なんとかしてくれ

アタマ割れそうだ

君の手で

さあ早く

もう破ってくれ

捨ててくれ

この偽られた筋書きを

迷うことはない

さあ早く

この罪深さを

永久に消^{とわ}してくれ

切り裂いてくれ

君の手で

この袋綴じの過去を

ためらわないで

頼むから

この哀しみを

消し去^{とわ}ってくれ

偽りの筋書き

君の手で

袋綴じの過去を

永久に葬^{とわ}ってくれ

ホコリまみれの愛で

きみとふたり

どこか遠くへ行くとしたら

軽く捨てられる

そんな何かがあるだろうか

On your mark! Get set! Go!

繰り出そうか 土曜の街へ

ネオン街に 君をさらって

涙の理由わけ聞かせてくれよ

Never say die.

We'll get along.

隠してきたこと

責めたりしないよ

You know I love you.

見せたくない そんな汚れも

全部 受け止めるから

I need you.

ホコリまみれの愛で

Love me do.

すべて包み込むよ

目に映るものがいつも

幸福しあわせに満ちて

いたらしいのに…

I cause I hope for the world
living with you.

泣き止んだら

少しばかりの崩れた笑み

忘れはしない

心のしおり そつとはさんで

Remember, today's things.

世界中が こんな夜でも

涙でみな 濡れているよ

君を連れて どこまでも行こう

I can't forget you forever.

壊れやすいもの

大切なものは

I'll always be true.

守らなければなくしてしまうと

いまさら気付いたから

I want you.

ホコリまみれの愛で

Love me do.

すべて受け止めるよ

聞こえてくるものがいつも

しあわせ
幸福に満ちて

いたらしいのに:

I cause I hope for the world

living with you.

I love you.

ホコリまみれの愛で

Love me do.

すべて忘れはしない

たったひとつの真実が

幸福しあわせに満ちて

いたらないのに...

I cause hope for the world
living with you.

フューチャーフライト

いくつの海を

渡つていくのだろう

エール
声援を送る

波の音を聞いて

みちしるへ
道標も

標識もない

みち
この空路で

遥かな水平線だけ

眺めてる

海から海へと

航つていくほどに

少しずつ強くなれる

そんな気がする

海は必ず

どこまでも続いてる

そんな言葉が聞こえる

憶えていてくれ

プロペラが壊れても

空は飛べるはずさ

いくつの空を

渡つていくのだろう

エール
声援を送る

雲を抜け

暗雲すらも立ち込める

この空路^{みち}で

見えてこないゴールだけ
目指してる

吹き荒れる風を

越えていく度に

少しずつ楽に

なった気がする

空は必ず

どこまでも続いてる

そんな言葉が聞こえる

憶えていてくれ

翼が折れていても

空は飛べるはずさ

そしてヒコキ雲で

未来を描こう

プロペラも翼も

壊れてしまっただけど

でもきつと

動かしてみせるよ

海は必ず

どこまでも続いてる

そんな言葉が聞こえる

憶えていてくれ

プロペラが壊れても

空は飛べるはずさ

空は必ず

どこまでも続いてる
そんな言葉が聞こえる
憶えていてくれ
翼が折れていても
空は飛べるはずさ

海を航るための
空を越えるための
世界地図を手に
いれたのだから
空は飛べるはず
明日は見えるはずさ

道は必ず
どこかに続いてる
そんな声援エールが聞こえる
忘れないでくれ
明日が見えなくても
空は飛べるはずさ

憶えていてくれ
明日が見えなくても
空は飛べるはずさ

アソビじゃない

…アソビじゃない

薔薇は深く赤く咲き

堇は青く可憐に花開く

君は何色に染まってみたい

砂糖菓子のように甘く…？

It's a serious .

All is fair in love and war .

春は曙 山際は白く

黄昏の空は金色に染まる

さあ答えを聞かせてほしい

君はどんな色になりたい？

It's a serious .

All is fair in love and war .

野郎共とツルんでいても

オナナ交えて遊んでいても

君の影がチラチラする

うざったいね

でもきつと、これは…

It's a serious .

All is fair in love and war .

It's a serious .

He laughs best

who laughs last .

It's a serious.
Nothing succeeds
like succeeds.
It's a serious.
: アソビじゃない

春風は野原の中に
シトロンを揺らす初夏の風
君はどんな風になりたい
刺激物のように辛く:?

It's a serious.
First catch your here.
秋の風に落葉が舞う

吹雪呼び込む冬の北風
さあ答えを聞かせてほしい
君はどこまで流されていた?

It's a serious.
First catch your here.
恋とかそんなじゃなくって
愛とかそんなでもなくって

でも友達以上の感情
マジなのかもね
たぶんきつと、そうだ:

It's a serious.
First catch your here.
It's a serious.
Second thoughts are best.
It's a serious.
Slow but steady win the race.
It's a serious.

∴ アソビじゃない

I t ' s a s e r i o u s .

∴ アソビじゃない

青い風にのって

青い風にのって
窓辺から飛び立つよ
明日を信じて生きていきたい

落書きだらけの教科書に
やりたいことがいっぱい
印刷された数式より
大切なこと

君が君でいるための
公式がそこに書かれてる
君しか当てはまりはしない
未知数の記号

駆け出したそのあと
幸せがついてくる
夢を捨てずに突き進め
どこまでも

青い風にのって
生きてゆければいい
君は君のまま
自分のペースで
青い風にのって
突き進めどこまでも
夢だけを信じて
生きていきたい

晴れた空を見上げては
手すりにその身任せて
自由に飛んでく鳥たちを
見送り苦笑わらう

心のドアをノックした
誰かが微笑みながら
ずっとこっちを見つめている
何か求めて

運命知ってから
飛べることに気づいた
背中の脆い羽根いま広げ
飛び立つよ

青い風につて
夢を信じればいい
幼気いたいいけなその目は
あの日もう消えたさ
青い風につて
窓辺から飛び立つよ
明日を信じて
生きていきたい

悲しみ芽生えたら
この大空を抱いて
思い出巻き込んで輝くよ
誰より

青い風につて
生きてゆければいい
君は君のまま

自分のペースで
青い風につて
突き進めどこまでも
夢だけを信じて
生きていきたい

青い風につて
夢を信じればいい
いたいいけ
幼気なその目は
あの日もう消えたさ
青い風につて
窓辺から飛び立つよ
明日を信じて
生きていきたい

生きていきたい

ひび割れたミラー

ひび割れたミラーが写し出す幻に
トリガーを引けば未来は変わる
世界はデコボコで
成り立ってるんだよ
山を切り谷を埋めれば
平らになるけどね
この世を均してみるか？
できるわけがない
だってそんな平坦な世界で
生きるのはつまらないだろう
この世は完全じゃないとか
不完全でなりたつてるとか
説教じみたこと言う前にさ
このひび割れた鏡を
覗いてごらんよ
そこに映るじぶんでさえ
歪んで見えるじゃないか
君もその住人なんだよ
wake up , kid .
目をさませよ

ミラーが映し出す幻に
トリガーを引いてみな
チグハグな住みにくい世界

一瞬で消え失せるよ

人間は道具と同じで

不良品のレッテル貼られたら

矯正されるか破棄されるか

そのどっちかしか道はない

この世を造り直してみるかい？

できるわけがない

自分より粗悪な奴がいなけりや

お前は誰に買われるつもりだ

すべては考え次第とか

見る角度を変えてみるとか

説教じみたこと言う前にさ

粉碎されたミラーを

お前の手で直してみろよ

血まみれになる

覚悟があるならな

w a k e u p , k i d .

目をさませよ

洗面台の鏡の前に立つて

軽く笑顔でも作ってみろよ

薄暗い洗面所の中で

そこに何が映ってる

そこに誰が映ってる

この世は完全じゃないとか

不完全でなりたつてるとか

説教じみたこと言う前にさ

このひび割れた鏡を

覗いてごらんよ

そこに映るじぶんでさえ
歪んで見えるじゃないか
君もその住人なんだよ
wake up , kid .
目をさませよ

すべては考え方次第とか
見る角度を変えてみるとか
説教じみたこと言う前にさ
粉碎されたミラーを
お前の手で直してみろよ
血まみれになる
覚悟があるならな
wake up , kid .
目をさませよ

顔を洗ってからもう一度
ひび割れた鏡覗いてみるよ
wake up , kid .
目をさませよ

ウソならkissはよして

ウソならkissはよして

どうせならちゃんとして

知ってるのよ

あなたの本音^{こころ}

ウソならkissはよして

あなたの胸の中に

他の女性^{ひと}がいること

知ってるのよ

あなたの腕枕で

寝たフリしてるとき

あなたはわたしを見守りながら

あの女性^{ひと}を見ていたわ

Ah - 出来心の浮気なら

許してあげるといったわ

Ah - でも本気になること

許したわけじゃないのよ

ウソならkissはよして

瞳を閉じないで

本音^{きもち}を

隠すなんてズルイわ

ウソならkissはよして

その女性^{ひと}としてきて

男性^{オトコ}は

あなただけじゃないのよ

メール覗いたことないし
現場見たわけじゃないけど
わたしには何となく分かるのよ
女のカンってやつかしら

Ah - 愛してると言うから
それ以上に愛したわ

Ah - でも今のあなた
別の女性を愛してる

ウソならkissはよして
少しはわたしを見て

本心知りたくなかったわ
ウソならkissはよして
わたしはあなたの家政婦に
なったわけじゃないのよ

Ah - 人の心は
鎖で繋いでおけないのね

Ah - もうあなたには
甘えたりはしない

ウソならkissはよして
どうせならちゃんとして

知ってるのよ
あなたの本音

ウソならkissはよして
あなたの胸の中に
他の女性がいること
知ってるのよ

ウソならkissはよして
優しく抱きしめないで
愛してるから憎いのよ
ウソならkissはよして
サヨナラを言わせて
You love me?
嘘に決まってるわ
オトコ
男性は
あなただけじゃないのよ

さよならスケッチ

雨のロータリー横断歩道

行き交う人の中 ふと立ち止まる
視界をかすったトレンチコート
指にシルバーのリングを探した
あの日描いたさよならスケッチ
心の美術館に

また見に来てるよ

この雨の中を君も
歩いているのかな

さよならの画はどれも

雨が降ってる

雨の横断歩道
セブラゾーン

交差点の中心

立ち止まる僕をよける傘の群れ
灰色の風景をカラフルに染めた
君の真つ赤な傘どこにも見えない
描いては破ったさよならスケッチ
美術館に飾り

何度も眺めてる

この雨の中で君は

誰と歩いているのかな

さよならの画はどれも

まだ描きかけのまま

ああ 雨がやんできたね
ひとつひとつ傘が消えていく
ああ 灰色の雲の切れ間から
光が差し込んできたよ

ミュージアム
美術館に

飾ってあるさよならスケッチの
一枚に青空が見え始めたよ
やっとな

B I R D

愛することを怖がらないで
愛されることから逃げないで
決して迷子にさせたりしないから
僕と一緒に帰ろう

体に刻み込まれてる
烙印を気にしてるんだね
抱き締めてくれる人はいないから
ひとりでもいいと強がっている
太陽の下から追放されて
夜の闇へと羽ばたく夜鷹
ひとりが楽なんて言わないで
近づく誰かを恐れたりしないで
決して手を離したりしないから
日の下に帰ろう

大通りで子供が泣いている
誰かを求めて泣いている
近づく心とは裏腹に
君は近付けないでいる
あの子が欲しいのは
自分じゃないからと
悲しい笑顔で羽ばたいた鵜
愛することを怖がらないで
愛されることから逃げないで

決して迷子にさせたりしないから
僕と一緒に帰ろう

ひとりが楽なんて言わないで
近づく誰かを恐れたりしないで
決して手を離したりしないから
日の下に帰ろう

日溜まりの中へ羽ばたこう

p l e a s e

強がることに疲れて
弱くなってたわたし
何かにずっと怯えて
屋上の隅　震えてた
傷ついた背中の羽根
つめたい手で温めて
夜空の下で決めたの
もう迷わないと
残酷な現実だけをただ信じて
甘い夢からは目を背けていた
夜は必ず明けると知ったから
本当に強くなるため
羽ばたくよ　世界へ
天使の仮面をかぶった
悪魔たちが喚んでいる
無垢な少年少女たちを
お願い　騙されないで
その笑顔に
信じるものはひとつだけ
じぶんの誇れる強さだけ
強そうに生きること
慣れすぎていたわたし
じぶんの弱いところに

ずっと目を 背けてた
ボロボロになつた心を
傷だらけの腕で支えて
夜明けと同時に呟いた
もう逃げないと

ぶつかり続けてきた惨い真実
それが世界の全てだと思つた
陽はまた昇ると気付いたから
この羽根も心も封じて

駆け出すよ ああ街へ

天使の羽根を背負う

悪魔たちが誘つてる

何も知らぬ子供たち

お願い 許さないで

その声音に

許せるものはひとつだけ
じぶんの誇れる弱さだけ

ビルの屋上を影が伸びてゆく
廃れてくこの街を陽が照らす
見せたいもの聞かせたいこと
いっぱいあつて

待つていて 今行くから

あとすこし 待つていて

このカラダ 癒えるまで

悪魔のレットル貼られた

天使たちがさまよつてる

このフハイしたセカイで

お願い 諦めたりしないで
離れないで

いつまでも信じさせて
誰もが神の子なのだ

BLUE ROSE

いつも君の首に揺れてる

keyモチーフのペンダント

近くで見ないと

分からなかったけど

ハート形のダイヤ付いてたんだね

バカにするように言ってみたら

君が教えてくれた秘密

ダイヤを輝かせるための

珠受け座の穴が

ハート形に抜かれていること

BLUE ROSE

君が笑顔みせてくれたとき

胸の高鳴り抑えられなかった

BLUE ROSE

君を幸せにしたいと

心からそう思った

君の心の蕾を凍てつかせた

氷が溶け始めたね、やっと

それが大粒の涙に変わって

溢れ出してる

Let's search for your

blue rose together.

冷たいままの青い薔薇が

もうすぐ咲き始めるよ

ダイヤモンドは強くて脆い
ちよつとのことじゃ

傷つかないけど

強く叩いたら簡単に

粉々に砕けてしまうから

ポケット中握り締めた指輪

君のもとへいま走ってる

過去・現在・未来…三連のjewel

真ん中が一番輝いてる

BLUE ROSE

光を取り込むための窓の

カーテンをまた閉めないで

BLUE ROSE

あのとときの君の笑顔

見失いたくないから

固く閉ざした心の蕾が

綻び始めたね、やっと

涙の雨で育ててゆけば

きっと花開くよ

Let's search for your

blue rose together.

冷たいままの青い薔薇が

もうすぐ咲き始めるよ

Let's search for your

blue rose together.

冷たいままの青い薔薇が

もうすぐ咲き始めるよ

遠距離友達

頼むから

無視だけはしないでよ

サヨナラくらい聞かせてよ

そんな優しさ必要ないから

電話でもメールでもいいから

please say good-bye .

南と北 東と西

こんなに離れてる私たち

なんで友達になったの

今はもう思い出せない

メールなんて週1回

電話なんか月に1回

会ったのはたった1度だけ

サヨナラなんて当たり前？

そんなことないと思ってた

信じ込もうとしていた

けど限界が訪れたみたい

2人のこの距離に

頼むから

無視だけはしないでよ

サヨナラくらい聞かせてよ

そんな優しさ必要ないから

電話でもメールでもいいから

please say good-bye .

ハッピーバースデー

メリークリスマス

あけおめ 理由作って

2人のこの距離と溝

埋めようと努力した

メル友だって友達でしょ？

君がかけてくれた電話

あの言葉は嘘じゃなかったよね

確かめても意味ないけど

友情は距離に勝てないの？

知らずに涙こぼれて

最後にもう1度だけでも

君に確かめたかった

頼むから

理由くらい聞かせてよ

ピリオド打ったその訳を

優しい遠距離友達

電話でもメールでもいいから

please say good-bye .

自然消滅はかつてるの？

そんなのズル過ぎるよ

もう2度と会えなくても

距離がもつと遠くなっただけだよ

頼むから

無視だけはしないでよ

サヨナラくらい聞かせてよ
そんな優しさ必要ないから
電話でもメールでもいいから

理由くらい聞かせてよ

ピリオド打ったその訳を

優しい遠距離友達

電話でもメールでもいいから

please say good-bye .

それでも

胸の奥で友達と呼ばせて

失恋した訳じゃないけれど

悲しい恋の歌なんて

今は聞けない

聞きたくないよ

失恋した訳じゃないけれど

大切なものをなくした気がして

独りぼっちの未来が見えて

人ごみの中

ふと立ち止まる

やっぱりみんな邪魔そうな顔して

僕を避けて歩いていくんだ

ああ、頼むから今は

何も訊かないでくれ

千切れそうなの

この魂たまの音ねを

被害妄想と受け止めてほしい

泣きたいのに涙が出てこないよ

笑いたいのにな顔忘れたよ

そんなこと絶対ないと

嫌だと思ったのに…

どうしてなんだろう

ハッピーエンドのドラマなんて

今は見られない

見たくもないよ

失恋した訳じゃないけれど
心にポツカリ穴が空いてさ
淋しいだけの人生だなんて
生きる意味価値

あるのだろうか

物欲名誉欲なにもないから
ただその意味だけ搜してる

ああ、お願いだ

何も言わないでくれ

屋上の上で震えていても

寒さのせいだと思って欲しい

誉めたいのに言葉出てこないよ

励ましたいのにも出ないよ

そんなこと絶対ないと

嫌だと思ったのに…

なんでなんだろうか

ああ、このときだ

何だと思わないでくれ

生きたい本能死にたい理性

失恋した訳じゃないのだけれど

見逃してくれないか

泣きたいのに涙が出てこないよ

笑いたいのには笑顔忘れたよ

そんなこと絶対ないと

嫌だと思ったのに…

誉めたいのに言葉出てこないよ

励ましたいのにも出ないよ
そんなこと絶対ないと
嫌だと思ったのに…
なんでなんだろうか
どうしてなんだろう

愛子　　く春が来ないく

愛は与えるものなのでしょうか

それとも貰うものなのでしょうか

あたしに愛子と名付けた親は

あたしを愛してくれたでしょうか

あたしに愛子と名付けた親を

あたしは愛してあげたでしょうか

幸子さん　あなたは本当に

本当にあなたは幸せですか

季節は必ず巡り巡って

春は来るものと思ってた

だのに生まれてからこの日まで

なんで隣に誰もいないの

春が来ない春が来ない春が来ない

秋に生まれてきた私は

冬を知ったつもりだった

でも

寒すぎて寒すぎて寒すぎて

愛しい人の腕の中で

凍えた身体を温めたい

風が冷たく煌めいて

オリオン座が冬を運んできた

生まれて何度目の冬だろう

星を見るたび涙が出てくる

生まれて何度目の冬だろう

誰かの温もりがただ恋しくて
春子さん あなたは本当に
本当に春は来ていますか
自分磨きに精を出し
けれどもそれは誰のため？
自分のためだと言うけれど
誰かに好かれる訳じゃない
春が来ない春が来ない春が来ない
季節はまた変わってゆくのに
そこだけどうして通り過ぎるの
淋しくて淋しくて淋しくて
春の風に吹かれながら
愛にそのまま流されていた

春が来ない春が来ない春が来ない
秋に生まれてきた私は
冬を知ったつもりだった
でも
寒すぎて寒すぎて寒すぎて
愛しい人の腕の中で
凍えた身体を温めたい

春が来ない春が来ない春が来ない
季節はまた変わってゆくのに
そこだけどうして通り過ぎるの
淋しくて淋しくて淋しくて
春の風に吹かれながら
愛にそのまま流されていた

type A

言葉にできないこの思いを
どう表したらいいんだろう
言葉や文字に出来るのなら
少しは楽になれるかもものに
一生懸命突っ走って
努力もしてきたつもりです
人一倍 二倍は頑張る
そんな人間をお前は棄てた
近寄りがたいはないだろう
よく知らないくせに
よく言えたもんだな
知らずに棄てた
お前の…敗けだ
そうさ分かってたつもりだよ
使いづらい人間だってことくらい
だから棄てたんだろう
優しい言葉で
卑怯な逃げ方はもういらない
俺は type A

文字にはできないこの思いを
どう表したらいいんだろう
言葉や文字に出来るのなら
ちよっとは楽になれるかもものに

前を見てただ全力疾走

頑張ってきたつもりです

人一倍の努力はする

そんな人間をお前は棄てた

柔軟性に欠けるはないだろう

よく知らないくせに

よく言えたもんだな

知らずに棄てた

あんたの…敗けだ

そうさ分かってたつもりだよ

はやる気持ち抑えられないくらい

だから棄てたんだろう

優しい言葉で

卑怯な逃げ方はもういらぬ

俺はtype A

勝ち気で競争心旺盛

几帳面で努力家な俺

焦ってイライラすることもあつた

だから棄てたんだろう

優しい言葉で

卑怯な逃げ方

そうさ分かってたつもりだよ

使いづらい人間だってことくらい

だから棄てたんだろう

優しい言葉で

卑怯な逃げ方はもういらぬ

俺はtype A

そうさ分かってたつもりだよ

はやる気持ち抑えられないくらい

だから棄てたんだろう

優しい言葉で

卑怯な逃げ方はもういらない

俺は type A

俺は type A

OCEAN

目を閉じれば思い出す
苦しかったけど楽しかった
あの日々を

懐かしい曲が聞こえてきて
砂浜の上ふと足を止めた
こんなにも憶えた全てが
ひとつひとつ零れ落ちてゆく
季節はまた巡り変わるのに
心だけがあのときのまま
懐かしさに痛む胸で
そつと呟く『サヨナラ』を
全てが動き出した
変わりゆく果てしない未来へ
波音が遠くなっていく
背中を向け歩き出す

OCEAN

同じ波はもう来ない
逃がせない でも逃がすしかない
海沿いの
オープンエア・レストラン
懐かしいあの曲に唇結ぶ
こんなにも愛した全てが

またひとつ零れ落ちてゆく
ストアはもうたたみだしたのに
心だけが止まったまま
波の音 消されてく
思い出に『サヨナラ』を
全てが変わり出した
移ろいゆく僕らの世界が
波音がもう聴こえない
唇を引き結んで

O C E A N

全てが動き出した
変わりゆく果てしない未来へ
波音が遠くなっていく
背中を向け歩き出す

O C E A N

桜

桜 l a l a l a l a
咲く l a l a l a l a
桜 l a l a l a l a
咲く l o v e l a l a

夜明けが無かったと言う前に
その目を開けてごらん
歩き出そうよ桜の花
ひとつひとつ数えて

桜 l a l a l a l a
咲く l a l a l a l a
桜 l a l a l a l a
咲く l i k e l a l a

胸にしまっていた季節を
すぐに解き放つてごらん
ほら見えるだろう満開の
薄紅色の祝福

桜 l a l a l a l a
咲く l a l a l a l a
桜 l a l a l a l a
sad, cool love l a l a
桜 l a l a l a l a
咲く l a l a l a l a

咲	桜	咲	桜	咲	桜	咲	桜	咲	桜
<		<		<		<		<	
l	l	l	l	l	l	l	l	l	l
i	a	a	a	o	a	a	a	o	a
k		a	a	v		a	a	e	
e	l	l	l	e	l	l	l		l
	a	a	a		a	a	a		a
l	l	l	l	l	l	l	l	l	l
a	a	a	a	a	a	a	a	a	a
l	l	l	l	l	l	l	l	l	l
a	a	a	a	a	a	a	a	a	a
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:

サイレント・メモリー

サイレント・メモリー 捜してる
未来はきつとやってくるよ
サイレント・メモリー 恐れずに
夢を抱いてやってごらん

いつもの駅で君を見た
思い出がよみがえる
優しいことは弱さだと
涙した君が浮かんで
wow...言葉が出なくて
wow...唇噛み締めた
wow...でも今は違う
きちんと君に応えられる
サイレント・メモリー 優しさは
君の誇れる強さだよ
サイレント・メモリー 忘れない
君はもう君で生きて行ける

空を見上げて笑ってる
もう大丈夫なんだね
静かすぎる思い出に
佇んでいた僕さ
wow...君がもしもまた
wow...泣きたいときは

wow… 僕の傍に来て
思う存分泣けばいいよ
サイレント・メモリー 捜してる
未来はきつとやってくるよ
サイレント・メモリー 恐れずに
夢を抱いてやってごらん

サイレント・メモリー
きつとまた

僕たちはまた巡り逢える

サイレント・メモリー 鈍行の
自動扉が静かに閉まる

サイレント・メモリー 優しさは

君の誇れる強さだよ

サイレント・メモリー 忘れない
君はもう君で生きて行ける

サイレント・メモリー

You make me find a true love .

You make me find a true love .

You make me find a true love. サ
イレント・メモリー

You make me find a true love:

エウリディケ

恋なんて二度としたくなかったと
笑いながら君はただ泣くけれど
恐いのは僕も同じなんだよ
だけでもう振り返りたくないよ
愛する人を失うことを
覚えはしても慣れはしないから
だから神様は涙をくれたんだ
ついてきてくれるかい？
震える僕の手をとって
連れて行くよ光の射す方へと
だから歩き出そう
険しくて真っ暗なこの道を
君をエウリディケにはさせないよ

時々ね 凄く不安になるんだよ
君がちゃんとついてきてくれるか
それでも君を試したりはしないよ
闇の中に置いていきたくないよ
振り返った途端きつと君は走って
闇の中に戻ってしまっただろう
だから僕は前しか見れないんだ
手と手を取り合って
体温を分かち合って

手探りで『君』を確かめている
君を連れて行くよ

光の射す確かな出口まで

君を決して独りにはさせないよ

罪罰

我儘な人の波に揉まれて
冷たすぎるナイフにぶつかる
過ちは何なのか
間違いは何なのか
自分らしく生きること
罪を感じてる
足を踏む人の冷たさに
その心すこし疲れても
優しさはここにある
温もりがここにある
だからもう怖がらず
上を見る
罪もないのに怖がることない
それすらも出来ない世界
必ず俺が見つけてみせる
本当の心を

握り締めた拳も使えず
見つめてる不安定な足元
必ず夜は明ける
朝はきつとやって来る
だからもう怖がらず
前を見る
罪もないのに罰を恐れる

その心 切なく響く
罪もないのに怖がることない
それすらも出来ない世界
必ず俺が見つけてみせる
本当の心を

また、夏は来る

期待は裏切られるためにある
夢は破られるためにある
そんな悲しいこと言わないで
また夏はやって来る

この雨が過ぎれば
もう夏はすぐそこ
涙より汗が似合う季節
信じてみようじゃないか
バカにされるほどに
全ては真夏の太陽の
せいにすればいい
希望は戒めるためにある
愛は棄てられるためにある
そんな切ないこと言わないで
もう一度やってみよう
愛を歌うアブラゼミのように
宙を踊る揚羽蝶のように
全霊で季節を感じよう
また夏はやって来るから

坂道を上ればもう海はすぐそこ
君が特別大好きな景色

夢見てみようじゃないか
笑われるほどに

全ては真夏の暑さの
せいにすればいい

期待は裏切られるためにある

夢は破られるためにある

そんな悲しいこと言わないで

もう一度やってみよう

敵と闘うカブトムシのように

太陽に咲く向日葵のように

全身でうつろいを受け入れよう

また夏はやって来るから

希望は戒めるためにある

愛は棄てられるためにある

そんな切ないこと言わないで

もう一度やってみよう

愛を歌うアブラゼミのように

宙を踊る揚羽蝶のように

全霊で季節を感じよう

また夏はやって来るから

向日葵

大きく背伸びして
太陽に手を伸ばす
お日様よりも
そんな君が眩しいよ
どうかそのまま
夢を追ってください
お日様色の眩しい
君だけの夢がちゃんと
叶いますように
果てない努力がちゃんと
報われますように

両手を大きく広げて
太陽の匂い胸一杯吸い込む
汗ばむ身体さえ
愛しい僕の向日葵
風雨に負けないで
花を咲かせてください
向日葵色の大きな
君だけの想いがちゃんと
届きますように
君と僕の夢がいつか
終わりますように

お日様色の眩しい
君だけの夢がちゃんと
叶いますように
果てない努力がちゃんと
報われますように

晚白柚

(Be yourself.
To thine onself be true.
Don't worry.
May the force be with you.
Be yourself.
To thine onself be true...)

もつともつともつと強く
なれたらいいね
きつときつときつと強く
なれる気がするよ
君と君と君と共に
歩き出すなら
もつともつともつと傍に
来てもいいかな
淋しさも哀しさも虚しさも
気持ちの弱さも
(Just dream of you)全部包んであげるよ
でっかくでっかく晚白柚
包んでやるぜ
お前のことを
太陽の色で晚白柚
輝いてみせる
でっかくでっかくでっかく

お前をすべて

遠く遠く遠くここまで

回り道した

ただけただけただけそれだけ

強くなれたよ

君と君と君と一緒に

歩き出せるよ

きつときつときつと強くと

誓った約束

優しさも可愛さも温かさも

たったそれだけを

(Just close to you)

愛したわけじゃないよ

まあるくまあるく晚白柚

受け止めてやる

お前のすべてを

太陽よりも晚白柚

光ってみせる

まあるくまあるくまあるく

お前のことを

上手く生きて行けなくても

不器用なほどつまづいても

俺の大切な約束

太陽の色で輝かせる

晚白柚のように

晚白柚のように

でっかくでっかく晚白柚

包んでやるぜ

お前のことを

太陽の色で晩白柚

輝いてみせる

Hold you tight 晩白柚

受け止めてやる

お前のすべてを

太陽よりも晩白柚

光ってみせる

でっかくでっかくでっかく

お前をすべて

永遠に

君と一緒に生きてゆくなら
守り続けたい明日がある
面と向かつては云えやしないけど
「アイシテル」

君とあの日あの時あの場所で
逢えなかったら…

あり得ないハナシ

出逢えてよかった…

心からそう思う

手と手を取りながら

そうさ永遠に

I l o v e y o u …

何を悩んでるの

F o r e v e r …

僕は君を誰にも

I l o v e y o u …

渡すつもりはないから

もう君を二度と離さない

君はもう独りじゃない

届かない心も抱き締めて

きつとずっと傍にいる

たった1つの明日を

君と一緒に守り続ける

佇む君を抱き締めてそうさ
「永遠に」

順境のときも逆境のときも
病めるときも健やかなるときも
僕は君のずっと傍にいる
左手薬指のリングに誓うよ

F o r e v e r …

何も心配いらない

I l o v e y o u …

僕が傍にいてあげる

F o r e v e r …

それだけじゃ駄目かな

もう君以外愛せない

君を一人にはさせたくない
こんなに傍に感じていても
いつだって君を搜してる
君と一緒に生きてゆくなら
守り続けたい明日がある
面と向かつては云えやしないけど
「アイシテル」

もう君を二度と離さない
君はもう独りじゃない
届かない心も抱き締めて
きつとずっと傍にいる
たった1つの明日を
君と一緒に守り続ける
佇む君を抱き締めてそうさ
「永遠に」

そんな君がとても好きだよ
もう自分のこと嫌いって言っ
た
いつも君を想ってるんだ
照れ臭くて云えやしないけど
遅くはない

「大好きだよ」

エンドレス・ウィンター

凝る白い吐息

涙さえ凍てつくような

この絶望的な悲しみを

なんと呼べばいい

愛する気持ちでさえ

何ひとつ知らないままに

この身は土に還れと

君は言うのか

消えてしまえばいいのですか

消えてしまえばいいのですか

消えてしまえばいいのですか

消えてしまえばいいのですか

ひとりぼっちの

メリークリスマス

ひとりぼっちの

ハッピーニューイヤー

どれだけ過ごせばいいのですか

何度繰り返しせばいいのですか

教えてください

裏切られて傷心

テレビの向こうの成功者

この絶望的な格差

どう受け止めりゃいい

愛されることなく

認められることなく

魂は空の彼方へ

昇るしかないのか

死んでしまえばいいのですか

死んでしまえばいいのですか

死んでしまえばいいのですか

死んでしまえばいいのですか

ひとりぼっちの

バレンタインデー

ひとりぼっちの

ハッピーバースデー

どれだけ過ごせばいいのですか

何度繰り返しせばいいのですか

教えてください

教えてください…

生きとし生ける者たちへ

僕はもう生きる気力が
すっかり枯れ果てたから
最後に僕の拙い歌を
聴いていただけませんか
夜になれば朝が怖くて
朝になれば夜が辛くて
そんな毎日を送ってるうちに
すっかり疲れてしまったのです
暗いニュースも明るいニュースも
聞いていてとても辛かった
僕の居場所はどこにもない
この世界にいるうちは
生きとし生ける者たちよ
君はいま幸せですか
それならそれでいいのです
僕には関係のないこと
ずっと幸せでいてください
人生を歩んでいてください
その命 燃え尽きるまで

恋に破れ 夢に破れ
生きる希望を失いました
ハッピーバースデー そして
メリークリスマス

いつだって ひとりぼっちでした
一生懸命生きてきて

挙げ句の果てにこの仕打ち
この世を恨んだりもしました
けれども それも最後

生きとし生ける者たちよ

僕は愚か者です

あなたはそんな風にならないで
生きてください

この世は素晴らしいところです
そして最低なところでも

けれどもそんな世界に

負けないでください

生きとし生ける者たちよ

僕の歌はこれで終わりです
けれども最後にひとつだけ

…ありがとう…

See you , world . . .

真夜中つけたホームページ

『 楽な自殺の仕方 』

首吊り 飛び降り

深酒して冬の街をブラブラ

べつに死にたいわけじゃない

だけど生きるのも苦しい

父の浮気 母の愚痴

兄のリストラ 自殺志願の僕

冬の夜がやって来た

氷点下の世界

さあ旅立とうか 死の旅へ

Never say die !

誰かが叫んでる

でも僕の決意は固いよ

それぐらいで揺らぐなら

薄着のまま外へは出ないよ

See you , world . . .

オーバードーズ 深酒

そのまま街へフラフラ

大好きな星でも見て

あの世へ逝こうか

生きていても良いことない

死んでもないだろうけど

あの山の頂上行って

眠りにつこうか

誰か泣いてくれるかな

関係ないけど

さあ旅立とうか 死の旅へ

N e v e r s a y d i e !

皆が叫んでる

でももう全てが遅いよ

小山の頂上に着いたし

力が段々抜けてきたよ

S e e y o u , w o r l d . . .

あれがシリウス

あれがプロキオン

あれがベテルギウス

意識なくなる前に

涙が一筋 頬を伝った

N e v e r s a y d i e !

誰もがそう言うけど

出来ない事情だってある

意識も薄れてきちゃって

あとは死を待つだけだよ

S e e y o u , w o r l d . . .

王子様なんて信じない

いつか必ず王子様が　なんて

夢見たりしないの

私はお姫様じゃないの

そんなのゴメンだもの

合コン　パーティ　おめかしして

ここが勝負どころね

私にあつた素敵なヒト

必ずGETしてみせるわ

無理に愛想良くなんかしらない

ギャップで胸キュン　マジック

そして恋の矢ブツ放すの

王子様なんて信じない

恋はやって来るものじゃなくて

捕まえに行くものだもの

赤い糸なんて信じない

前世からの約束なんかに

縛られていたくないもの

待っててねダーリン

ボリウムマスカラ

隠れコンシーラー

準備は万端

お姫様なんかになれはしない
けど全力は尽くしたいの

偶然見つけたピピツとくるヒト
恋の始まり

私の腕の見せどころね
必ず射止めてみせるわ

一枚着るのは淑女のたしなみ

ちゃんとしたオンナ マジック

一度で二度美味しいは基本よ

王子様なんて信じない

恋は待ち構えるものじゃなくて

追いかけるものなの

運命なんて信じない

出逢いは必然なんかじゃなくて

いつだって作戦のうちよ

覚悟してダーリン

いつか本当に出逢えるかしら

いいえ本当に出逢ってみせるわ

私だけの素敵な人

王子様なんて信じない

どんなティアラを被ったって

そんなヒト現れないわ

占いなんて信じない

良いも悪いも私次第

結果なんて分からないもの

気を付けてダーリン

Tangerine Voice

おコタで蜜柑 素敵に幸せ

隣には貴方 笑っちゃうよね

それだけでなんだか

嬉しくなるの

元気の源

タンジェリン・ヴォイス

Ah

夕陽は素敵なシチュエーション

Ah

大っきな蜜柑がほら沈んでいく

l u l u l u l a l a

t a n g e r i n e v o i c e

今すぐここに届けてよ

l u l u l u l a l a

t a n g e r i n e v o i c e

貴方の素敵な声で

外に粉雪 降るような季節は

寄り添い合って

タンジェリン・ヴォイス

Ah

ほら見て朝陽が昇ってくよ

Ah

大っきな蜜柑が私たちを照らす

lu lu lu la la
tangerine voice
ねえお願い今すぐに

lu lu lu la la
tangerine voice
貴方の元気 分けて欲しい

凍えそうな 寒いような夜は
甘い蜜柑に 心委ねて

lu lu lu la la
tangerine voice
今すぐここに届けてよ

lu lu lu la la
tangerine voice
貴方の素敵な声で

lu lu lu la la
tangerine voice
ねえお願い今すぐに

lu lu lu la la
tangerine voice
貴方の元気 分けて欲しい

lu lu lu la la
tangerine voice
...

TE QUIERO

抱き締めた胸のTE QUIERO

しまい込まず解き放て

その心 傷を負うこと

恐れることなど何もないさ

I'll get you and destiny .

そうさ運命は

廻り続ける人生の歯車だから

TE QUIERO この世界は

TE QUIERO 誰の物でもない

TE QUIERO 生き続けるんだ

TE QUIERO その心 在る限り

燃え上がれ心のTE QUIERO

迸らせ アイツを狙え

傷付いたままでもいいさ

他の誰かと出逢うまで

I'll get you and freedom .

そうさ自由は

誰も奪えない君自身の夢だから

TE QUIERO この世界は

TE QUIERO ボーダーなどない

TE QUIERO 生き続けるんだ

TE QUIERO その心 在る限り

I'll get you and destiny.

そうさ運命は

廻り続ける人生の歯車だから

TE QUIERO この世界は

TE QUIERO 誰の物でもない

TE QUIERO 生き続けるんだ

TE QUIERO その心 在る限り

『だれか』

窓の結露に相合い傘描いて
私の隣『だれか』と書いた
未だ見ぬ未来の恋人
待ち続けて

ひとりのとき胸が苦しくなる
嗚呼お願い早く
私を見つけて

この苦しみに胸が
張り裂ける前に
人はどうして 愛を求めて
闇の中をさまよう運命さだめ
眠れぬ夜を幾度も繰り返し
いつか出会うべき
『だれか』を探し続ける

もう恋なんてしないと決めて
それでも隣

『だれか』にいてほしい
次に来る未来の恋人
探し続けて

ひとりの夜 人肌恋しくなる
嗚呼お願い早く
ここに辿り着いて
この寂しさに眼が

涙色 染まる前に

人はどうして 恋をしながら

別れを繰り返す運命^{さだめ}

眠れぬ想いを胸に焼き焦がし

いつか出会うべき

『だれか』を求め続ける

人はどうして 愛を求めて

闇の中をさまよう運命^{さだめ}

眠れぬ夜を幾度も繰り返し

いつか出会うべき

『だれか』を探し続ける

いつか出会うべき

『だれか』を求め続ける

ペンギン

ペンギンは翔んだんだ
君はもうひとりで
生きていけるね

氷原の中ひとり佇み
その黒々とした目を開き
まるで（まるで）何かを（何かを）
望んでるかのように

小さな命を温め
自分は冷たい海の中へ
小さな（小さな）足で（足で）
氷を踏みしめ

俺もガキの頃は大空を
自由に飛びたいと思った
君の小さなその夢は
叶えることは可能なのか
ペンギンは翔んだんだ
（ペンギンが翔んだ）
（ペンギンが翔んだ）
空を翔べるね

狭い檻の中 閉じ込められ

人工のプールの中へ
人の（人の）目を（目を）
すぐく気にして
同じ仲間と戯れたり
飼育員に餌を貰ったり
楽な（楽な）生活（生活）
そう誤解されたり
学生の頃 自由を求めて
散々バカやってきたけど
君の小さな憧れは
いつか叶うものだろうか
ペンギンは翔んだんだ
（ペンギンが翔んだ）
君はもうその手に
ペンギンは翔んだんだ
（ペンギンが翔んだ）
自由を手にした

小さな頃の憧れと
今は全く違うけど
やっと手にした羽を広げ
この広い世界へ y e a h
ペンギンは翔んだんだ
（ペンギンが翔んだ）
君はもうその手に
ペンギンは翔んだんだ
（ペンギンが翔んだ）
自由を手にした

ペンギンは翔んだんだ
(ペンギンが翔んだ)
君はもうひとりで
ペンギンは翔んだんだ
(ペンギンが翔んだ)
空を翔べるね

ペンギンは翔んだんだ
君はもうひとりで
生きていけるね

俺は自分しか信じない

俺は誰も信じない

俺は誰も許さない

世の中蔓延る依怙鬚臆

その渦中には俺がいる

俺の何が気に入らないのか

俺の何処が気に入らないのか

叱ってくるのもただ単に

俺が嫌いなだけなんだろう

俺は誰も信じない

俺は誰も許さない

自分勝手に生きやがる

そんな奴等に同情しない

俺は誰も信じない

俺は誰も許さない

俺は自分しか信じない

俺は何も信じない

俺は何も許さない

心を許すということは

自分の弱味を見せること

人の弱味につけこんで

散々搾り取った挙げ句

ポイして回る優等生

それを許してる世間が憎い

俺は何も信じない
俺は何も許さない
自分勝手に生きやがる
そんな奴等に同情しない
俺は何も信じない
俺は何も許さない
俺は自分しか信じない

俺は誰も信じない
俺は誰も許さない
自分勝手に生きやがる
そんな奴等に同情しない
俺は誰も信じない
俺は誰も許さない
俺は自分しか信じない

泣かないで y e e l l

いくら努力を積み重ねても
オンリーワンのままじゃ嫌だと
数字を憎んだそのときも
花の肥やしになるものさ
花屋の店先並んでる
花にも売れ残りがあると
酔ったフリして泣いていた
そんな時間が哀しいよ
泣かないで 忘れないで
泣かないで 思い出して
この街で誰かが君に
見えない y e e l l を贈っていることを

人生困難に立ち向かって
修行修行のままじゃ嫌だと
不幸を想ったそのときも
綺麗な水になるものさ
誰の目にも留まらないまま
枯れてしまう花だってあると
涙浮かべた水割りが
心の中に凝ってる
泣かないで 振り向いて
泣かないで 顔を上げて
僕がここにいますよ

見えない y e e l l を贈りながら

人は人 自分は自分

見方を変える 自分を好きになれ
それが簡単じゃないことくらい

僕には痛いほど分かるから

泣かないで 元気を出して

泣かないで 力のかぎり

花を咲かせてみよう

見えない y e e l l に応えるように

泣かないで 元気を出して

泣かないで 力のかぎり

花を咲かせてみよう

見えない y e e l l に応えるように

Y・H

もし1つだけ願いが叶うなら
あの人のココロ 私に下さい
うまくいった その筈なのに
突然世界を離れていったヒト
あの日から私 大人になれなくて
子供みたいに夜通し泣いてた
どうしてどうして 頭の中は
その言葉ばかり ぐるぐる廻る
誰か助けて 誰か助けて
この悲しみを 誰か消し去って
第2ボタンも名札もなくて
空っぽの掌 今日卒業式

“もし君の心 拒んだとしたら
今ある友情 崩したくなかった”
そんなの狡いよ 狡いよそんなの
友情を言い訳に使うだなんて
あの日から私 何か足りなくて
深い水の底 もがき続けた
人命救助 差し出す手はなく
手はただ空^{くう}を
掴みかけるだけ
誰か助けて 誰か助けて
この苦しみを 誰か取り除いて

3月の中の卒業式は
今日が私の失恋記念日

この声きつと届かないよね
この心きつと気付いてないよね

ただ悲しくて ただ苦しくて
この恋心 卒業しないと

空っぽの掌 卒業式

今日が私の 卒業式

コピー&ペースト

暗い室内 冷めたコーヒー
白い画面見て言葉を探す
超がつくほど自由な空間
欲しい物もすぐ手に入る
辛い現実 慣れてしまつて
異論暴論 応えもせずに
君への返事もコピー&ペースト
そう ここは酷い空間ですね
(<http://www.com/>)
コミュニケーション
言葉はいいけど
裏を返せばただの悪口
バーチャル リアル
そう変わらない
欲しい言葉はただ1つだけ
“君が本当に必要なんだ”

“大っ嫌いよ
もうサヨナラなの”
現実こんなに痛かったつけ
どこかで道を間違えたのかな
ああ太陽が僕を笑つてる
仮想現実 癒しもくれず
惨い現実 繰り返すだけ
君へのコメも コピー&ペースト
そう ここは哀しい空間ですね

(<http://www.com/>)

逢ってみたいよ その言葉は
僕たちの期待 裏切るだけ
身体も心も蝕んでいく
欲しい言葉はたったこれだけ
“君が本当に大好きなんだ”

暗い室内 冷めたコーヒー

すっかり手慣れた

コピー&ペースト

コミュニケーション

僕に用はない？

欲しい言葉は ここにはない

“君はいるべき存在なんだ”

YOUR LITTLE DREAMS

細雪の前触れの曇天^{そら}
流るる涙　ただ一滴^{ひとしずく}

私とあの人どこが違うの？

あの時の君の表情^{かお}

忘れない

辛い現実**に**ぶつかって

傷付いたその翼を

凍える両手で温めて

ただ夜明けを待っている

夢を知らずに逃げないで

諦めることは簡単だけど

いつか必ずこれを気付いて

夜はきつと明けるよ

君のために

真っ白な粉雪降り

真っ赤な頬に手袋あてる

もう大丈夫　心配しないで

泣きそうな君の表情^{かお}

忘れない

諦めたの？　その夢を

傷付いたその心を

繕うことなく放置して

現実だけを背負ってる

夢から目をそむけないで
捨て去ることは容易だけど
いつか必ず思い出して
夢はきつと叶うよ
夢を信じて

夢を知らずに逃げないで
諦めることは簡単だけど
いつか必ず思い出して
夢はきつと叶うよ
夢を信じて
君のために

T i c k e t T o P a r a d i s e O f C h o o C h o o T r a i

夢追いかけてone night

let's go, choo choo train

連れて行ってよmidnight

so please, choo choo train

僕らの前にレールはない

僕らがレールを作るのさ

今までの人生に

自信なんてないけど

不器用な生き方

選んだわけじゃない

不安定な足許に

不器用なほど躓いても

手に入れたticket to paradise

手放したりしない

行こう（行こう）行こう（行こう）

行こう（行こう）行こう（行こう）

行こう let's go!

たったひとつ憶えてた夢を

行こう（行こう）行こう（行こう）

行こう（行こう）行こう（行こう）

行こう let's go!

掴むため僕は行くんだ

どこまでも輝く空に

僕だけの軌跡を描こう

この両翼にはプロペラがないけど
でも必ず翔ばしてみせるよ

どんなに忙しくたって

生きることは怠けやしない

やっと掴んだ ticket to paradise
なくしたりしない

行こう（行こう）行こう（行こう）

行こう（行こう）行こう（行こう）

行こう let's go!

たった一言口にした夢を

行こう（行こう）行こう（行こう）

行こう（行こう）行こう（行こう）

行こう let's go!

叶えるため僕は行くんだ

夢追いかけて one night

let's go, choo choo train

連れて行ってよ midnight

so please, choo choo train

月明かりのエスケープ

月明かりの下のエスケープ
ポラリスに向かって走る
凍える夜を切り裂いて
この願い もう一度

O h , b a b y , c o m e o n n o w .

切っ掛けは些細な出来事

ちよつとしたボタンの掛け違い

運命の齒車は廻り始め

君は夜の街へと飛び出す

I s a y y e s , y o u s a y n o .

なぜこんなにもすれ違ふの

嘘でもいいから微笑んで

S o p l e a s e . O h , l o r d .

月明かりの下のエスケープ

目指す彼方 北斗七星

明けゆく夜を乗り越えて

この想い もう一度

O h , b a b y , c o m e o n n o w .

いつのまにか君なしでは
生きてゆけなくなっていた
だのに君を傷つけるだけで
何も出来ない自分が憎い

I s a y g o , y o u s a y s t o p .

これほどまでに離ればなれ

狂った歯車 元に戻そう？

S o p l e a s e . O h , l o r d .

月明かりの下のエスケープ

ポラリスに向かって走る

凍える夜を切り裂いて

この願い もう一度

O h , b a b y , c o m e o n n o w .

月明かりの下のエスケープ

目指す彼方 北斗七星

明けゆく夜を乗り越えて

この想い もう一度

O h , b a b y , c o m e o n n o w .

月明かりの下のエスケープ

ポラリスに向かって走る

凍える夜を切り裂いて

この願い もう一度

O h , b a b y , c o m e o n n o w .

ナミダ雨

時のトビラをノックして
未来のあなたに逢いましょう
何も怖れることはない
いつだって自分が傍にいるから

眠れぬ夜は星を数えましょう
それでも駄目なら
思い切り泣きましょう
過去を忘れることはできないけど
未来を探す糧になるでしょう
思い出した哀しみは全て
涙の海へと流しましょう
とても優しい冷たさで
川が海へ流れていくように

雨上がりの空に虹を探しましょう
それが夜なら月を探しましょう
哀しみをひとつ忘れたときに
優しさをひとつ見付けるでしょう
時のトビラをノックして
未来のあなたに逢いましょう
何も怖れることはない
いつだって自分が傍にいるから

思い出した哀しみは全て
涙の海へと流しましょ
うとても優しい冷たさで
川が海へ流れていくように

涙なんかもういらぬ

俺が君を守るよと

言ってくれた日から

濡らした枕も

自然に乾いていった

愛し愛されることが

こんなにも勇気を

与えてくれるものだ

知らずにいたんだ

青い空 白い雲 隣には貴方

二人肩寄せあい口付けを促す

人を信じることなんて

できやしなかった

騙し騙されることに

疲れきっていた

そんな日々の中 偶然出逢った

唯一心を許せる人

もう泣かなくていいと思った

もう泣かなくていいと思えた

俺が君温めるよと

言ってくれた日から

少し前を見て

歩けるようになったんだ

涙なんかもういらぬ

そう決めてから
一歩一歩確実に
歩み始めた
赤い朝陽照らしてる
貴方の横顔
寒いからと嘘をついて
腕まで組んだ
人を好きになるなんて
できやしなかった
裏切られることばかり
怯え続けた
そんな日々の中 やつと出逢えた
この心 奪っていった人

人を信じることなんて
できやしなかった
騙し騙されることに
疲れきっていた
そんな日々の中 偶然出逢った
唯一心を許せる人
もう泣かなくていいと思った
もう泣かなくていいと思えた

c
a
r
e

ねえどうしたんだい

浮かない顔をしてるね

塞がっていない過去の傷が

また開いてしまったのかな

大丈夫なんて

うわべだけの笑顔向けられても

脆く弱い僕の心は

どうしたらいいのかわからない

明るく励ましゃいいのかな

そつと寄り添えばいいのかな

僕は君に何をすれば

君の薬箱になれるのかな

c
a
r
e 君に勇気をあげる

なけなしの勇気の

欠片でしかないけど

受け取ってほしいんだ

君の笑顔を見たいんだ

本当の笑顔を僕に見せてよ

ねえ心配だよ

笑顔が曇ってるから

せめて僕の前でくらい

思いきり涙見せてほしい

平気だよなんて

形だけ気丈に振る舞われても
頼りなくて惨めな僕は

何をすべきか分からない

頑張れなんて言わないよ

君の頑張りを知っているから

死ぬ気なら何でも出来るなんて

無責任なことも言わないよ

c a r e ∴ 君に愛をあげる

重たすぎる僕の

ひと欠片の愛情を

受け取ってほしいんだ

君の笑顔を見たいんだ

本当の笑顔を僕に見せてよ

c a r e ∴ 君に勇気をあげる

なけなしの勇気の

欠片でしかないけど

c a r e ∴ 君に愛をあげる

重たすぎる僕の

ひと欠片の愛情を

受け取ってほしいんだ

君の笑顔を見たいんだ

本当の笑顔を僕に見せてよ

アームカッター

7本目のカッターで

ピタリと手を止めた君

他人の傷まで背負って

君は生き続けている

どうしても止められない

理由^{わけ}ならいい

言葉で言い表せないこと

分かっているから

自己中心的な人の波に

君は疲れ果てて...

Please, be yourself.

涙見せてもいいよ

Please, be yourself.

それで笑えるなら

腕に残る傷に

垣間見える痛み

心が痛み慣れてしまつて

身体は痛みを感じない

他人の傷を何倍にもして

君が背負うことないのに...

Please, be yourself.

嘘をついてもいいよ

Please, be yourself.

それで笑えるなら

Please, be yourself.

涙見せてもいいよ

Please, be yourself.

それで笑えるなら

いきたいよ

行きたいよ 君のところへ
繋いだ手を離さないで

“ 生きたいよ ”

そう叫ぶ声よ 天に届け

違う道を歩んでいたら

運命は変わって

いたかもしれない

残り少ない人生を

どんな風に生きればいいのか？

行きたいよ 君のところへ

この背の翼 羽ばたかせて

“ 逝きたいよ ”

もう二度とそんなこと願わない

サヨナラするために出逢うなら

どうしてこんなに馴れ合うの

『 また来るよ 』 遠ざかる背中に

永訣の瞬間ときを垣間見る

行きたいよ 君のところへ

繋いだ手を離さないで

“ 生きたいよ ”

そう叫ぶ声よ 天に届け

行きたいよ 君のところへ

この背の翼 羽ばたかせて

“ 逝きたいよ ”

もう二度とそんなこと願わない

雨二モ負ケズ

雨二モ負ケズ 風二モ負ケズ

決していからず

いつも静かに笑っている

そんな人間に なれるだろうか

そんな人間に出逢えるだろうか

青空の下における六等星小僧の

戯れ言に耳傾けることにや

この世は理不尽

エンジン全開しても

思い通りにや到底ならねえ

誰かが陰口 誰かの悪口

いつでもどこでも誰かがグチグチ

愚痴こぼす

この世の中にうんざり

カッコつけてる俺 バカみてえ

雨二モ負ケズ 風二モ負ケズ

決していからず

いつも静かに笑っている

そんな人間に なれるだろうか

そんな人間に出逢えるだろうか

誰が悪いのとアラ探す奴の

密やかな声に耳そばたてりや

人間誰しも不平不満ばかり

小部屋に渦巻く不幸自慢ばかり

ランプも点けずに角曲がる

人気ひとけもないのに

クラクション鳴らす

道端でチャリに乗って話すなよ

迷惑なんだよ

いちいちうるせえ？

雨二モ負ケズ 風二モ負ケズ

決していからず

いつも静かに笑っている

そんな人間に なれるだろうか

そんな人間に出逢えるだろうか

雨二モ負ケズ 風二モ負ケズ

決していからず

いつも静かに笑っている

そんな人間に なれるだろうか

そんな人間に出逢えるだろうか

修羅

街角のくわえ煙草

口許に点る螢火

フィルターまで吸って

揉み消すのは短い希望か

灯りの消えた夜に

微笑むのは誰

無邪気な願いは

色褪せて大人びていく

知らねば迷わぬ修羅の道

報国の心 春風に流れ

何が貴様を突き動かすのか

何が俺等を突き動かすのか

籠の鳥

啼かぬというなら

啼かせてみやがれ

B A B Y

窓際の古いピアノ

鍵盤に踊る指先

スタッカート刻んで

奏でるのは終焉の序曲か

迷い込んだ迷路で

時を止めた俺

壊れた未来は

少女たちの眼差しの中

知らねば迷わぬ修羅の道

無血革命 夢のまた夢

何が貴様を突き動かすのか

何が俺等を突き動かすのか

籠の鳥

啼かぬというなら

啼かせてもらおう

B A B Y

風に揺れるポニーテール

シンクロする影

マジなプライドは

憂いだけ残し碎けた

知らねば迷わぬ修羅の道

地図もなく標さえなく

何を信じて進めばいいのか

何を抱いて歩めばいいのか

知らねば迷わぬ修羅の道

曙の鴉すべて殺めて

何が貴様を突き動かすのか

何が俺等を突き動かすのか

籠の鳥

啼かぬというなら

啼かせてください

B A B Y

ボクは破壊する、この不都合なセカイを

自分の価値なんて

自分で決めればいい

指も動かせない

狭い小部屋に

こうして閉じ込めた

キミがそれを言うの？

道を間違っってから

ボクの居場所はここにはない

イヤホン越しの音量

ボリュームは最大限

周りからの雑音なんて

ぜんぶ、シャットアウト

「甘い夢なんて

見なければよかった

知らないままなら

辛くはなかった」

子供にそう思わせるのが

セカイなら

そんなモノ 壊シテヤル

生きなさい 何か

物事を成すのなら

成功をおさめた

その秘訣を

命懸けと称した

キミがそれを言うの？

青雲を踏み外してから

ボクの居場所はここにはない

アイマスクさげる朝

目を開けても真っ暗

流れ往く景色なんて

ぜんぶ、シャットアウト

「疲れちゃったよ

人に譲ることに

ボクだって真ん中

歩いてみたい」

子供にそう言わせるのが

セカイなら

そんなモノ 潰シテヤル

どうか

水面に映る月の影を
細波が歪めるように
鏡に映るわたしの影
誰かがヒビを入れた
鏡に映った影ですべて
知った気にならないで
くずしたあの人の姿に
濡れ衣だけ着せないで
どうか

乱世に突如現れた
瑞兆を斬り伏せて
自ら救いを手放してまで
助けを求める意味は何？

地上に降りた月の天女
世界に引き留めるため
松にかかった天の羽衣
誰かがぬすんでいった
偽の羽衣まとう人を
神などと呼ばないで
空を懐かしむ天女を
地上に落とさないで
どうか

平穏を夢見る人の

憧憬は夜叉にあり

正義を語る人斬りは
いったい何を信じるの？

救えない、導けない

あなたは何を求めているの

主観だらけの人生で

共感など求めないで

どうか

平穏を夢見る人の

憧憬は夜叉にあり

正義を語る人斬りは

いったい何を信じるの？

乱世に突如現れた

瑞兆を斬り伏せて

自ら救いを手放してまで

助けを求める意味は何？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0626f/>

竜胆の花と青い薔薇

2011年9月10日08時10分発行